

證人ノ名氏ヲ被劾者ニ告知スヘシ但シ裁判官ノ居住ト相鄰接スル府邑其他鄰接ノ地ニ於テ拿捕スルキハ其時ヨリ二十四時内ニ之ヲ告知スヘシ若シ裁判官ノ居住ヨリ遠隔スル地ニ於テ拿捕スルキハ其距離遠近ニ準シ法律ニ定メタル當應ノ期限内ニ之ヲ告知スヘシ

第八 罪アルキト雖モ本人若シ法律ニ許シタル場合ニ於テ充分ナル保證ヲ供具スレハ之ヲ拘繫スヘカラス亦既ニ拿捕シタル者ヲ收禁スベカラス又凡ソ六ヶ月間ノ禁獄若シハ追放ヨリモ重キ刑ヲ科セサ

ル罪事ニ對シ其犯人ハ保證ヲ供具シテ身體ノ自由ヲ得ヘシ

第九 現行犯罪ヲ除クノ外ハ當該部官ヨリ發出シタル命令書ニ依ルニ非スシテ拿捕スルコトヲ得ス若シ縱マ、ニ拿捕スルアレハ之ヲ命令シタル裁判官及ヒ之ヲ請求シタル人ヲ法律ニ掲クル刑ニ處スヘシ禁獄ニ關スル條規ハ軍隊ノ紀律并ニ点徴ノ爲ニ須要ト定メタル軍法ニ推及セス亦正シク刑法ニ依照セスト雖モ裁判所ノ命令ニ從ハサルガ爲メカ若クハ定期限マテニ其義務ノ執行ヲ怠リタルカ爲メニ

法律ニ因リ拿捕ヲ命スル時機ニモ推及セズ

第十 何人モ當該部官ニ由ルノ外ハ既定ノ法律ニ依リ及ヒ法律ニ定ムル規定ニ循フモ之ヲ審斷スヘカラズ

第十一 司法權ノ不羈ハ保固スヘシ何レノ官廳ト雖モ未決ノ詞訟ヲ奪ヒ
甲ノ裁判所ニ於テ准理スル詞訟ヲ奪フテ乙ノ裁判所ニ委託ス
聽訟ヲ閣置シ若クハ既ニ終リタル詞訟ヲ再ヒ起サシムルヲ得ヘカラス

第十二 法律ハ其保護ニ關スル者モ懲罰ニ關スルモノモ全國民ニ對シ平等トス又法律ハ各人ノ功績ニ

比率シテ褒賞ヲ行フ

第十三 凡ソ國民ハ皆文武官若クハ國事ノ官僚ニ拜スルヲ得但シ才德ニ因ルノ外ハ異別スル所アルベカラズ
官ニ拜スルニ當リテ閱閱特准等ヲ設ケサルヲ云

第十四 何人モ其所有産ニ比率シテ國家ノ責任ヲ助クルノ責ヲ免ルベカラス
人々其所有産ノ多少ニ準シ租稅ヲ納レテ國用ヲ助ク

第十五 凡ソ已ムヲ得ベクシテ且至ク公益ノ爲メニスル課務ニ涉ラサル特准ハ皆廢止ニ屬ス

第十六 訴件ノ性質ニ因リ法律ニ依據シ其特別ノ裁

判官ニ屬スル者ノ外ハ民事若クハ刑事ニ於テ臨時
裁判所若クハ特別ノ委員ヲ設クベカラス

第十七 正直無偏ノ基本トシテ民法刑法書ヲ編立ス
ベシ

第十八 自今鞭撻ノ刑拷問烙刑其他總テ人情ニ依ラ
サル酷刑ヲ廢ス 増補律例第十六條ニ云ク法律ニ指
定スベキ國事犯ニ對シ死刑ヲ廢ス

第十九 何レノ刑罰タリモ犯罪人ノ他ニ及ボスベカ
ラス 刑罰ハ犯者ノ是故ニ何レノ場合ニ於テモ財產
ノ沒收ヲ言渡スベカラス及ヒ等級ノ親疎ヲ論セス
罪者ノ汚辱ヲ其親眷ニ移スベカラス

ホ

第二十 獄舎ハ健全清潔ニシテ且極メテ大氣ノ流通
ヲ善クスベシ及ヒ犯罪ノ性質ニ準シ囚人ヲ區別ス
ルガタメニ獄舎ヲ分割スベシ

第二十一 所有ノ權ハ嚴ニ之ヲ保固ス若シ法律上ニ
憑證シタル公利ノ爲ニ政府國民ノ所有ヲ享用スル
トチ要スルモ該國民ニ其所有產ノ價直テ前給ス
ベシ但シ此特例ヲ公利ノ爲ニ私有ヲ行フベキ時機及
ヒ前給ヲ定ムル條規ハ法律ヲ以テ之レヲ指定スベ
シ

第二十二 國債ハ之ヲ保固ス 法律ヲ制定ムルヲ還償ノ
方法ヲ定ムルヲ云

判官ニ屬スル者ノ外ハ民事若クハ刑事ニ於テ臨時
裁判所若クハ特別ノ委員ヲ設クベカラス

第十七 正直無偏ノ基本トシテ民法刑法書ヲ編立ス
ベシ

第十八 自今鞭撻ノ刑拷問烙刑其他總テ人情ニ依ラ
サル酷刑ヲ廢ス増補律例第十六條ニ云ク法律ニ指
定スベキ國事犯ニ對シ死刑ヲ廢ス

第十九 何レノ刑罰タリモ犯罪人ノ他ニ及ボスベカ
ラス刑罰ハ犯者ノ是故ニ何レノ場合ニ於テモ財產
ノ沒收ヲ言渡スベカラス及ヒ等級ノ親疎ヲ論セス
罪者ノ汚辱ヲ其親眷ニ移スベカラス

ホ

第二十 獄舎ハ健全清潔ニシテ且極メテ大氣ノ流通
ヲ善クスベシ及ヒ犯罪ノ性質ニ準シ囚人ヲ區別ス
ルガタメニ獄舎ヲ分割スベシ

第二十一 所有ノ權ハ嚴ニ之ヲ保固ス若シ法律上ニ
憑證シタル公利ノ爲ニ政府國民ノ所有ヲ享用スル
ヲ要スルモ該國民ニ其所有產ノ價直ヲ前給ス
ベシ但シ此特例ヲ公利ノ爲ニ私有ヲ行フベキ時機及
ヒ前給ヲ定ムル條規ハ法律ヲ以テ之レヲ指定スベ
シ

第二十二 國債ハ之ヲ保固ス法律ヲ制シテ還償ノ
方法ヲ定ムルヲ云

第二十三 何レノ作勞工業農耕ト雖モ行儀ニ戻リ國民ノ安全若クハ健康ヲ傷害スルニ非レハ之ヲ禁制スルコトヲ得ス

第二十四 發明者ハ其發明若クハ發明ヨリ生スル利益ヲ占有スベシ又法律ハ有期ノ特准ヲ發明者ニ保固シ及ヒ發明シタル方法ノ流布ビユルガリサンオン國民一般ニ發明ノニ由リ發明者ノ被リタル損失ノ償金ヲ之ニ給與スベシ

第二十五 信書ノ秘密ハ侵スベカラズ驛遞局ハ信書不侵ノ件ニ於テ如何ナル違犯アルモ嚴ニ其責ニ任

ス

第二十六 國家ニ對シ文武ノ勳功アルニ由テ賜與シタル褒賞及ヒ法律ニ依準シテ賞典ヲ賜ハルニ由リ得有シタル權理ハ政府之ヲ保固ス妄リニ之ヲ剝奪スベカラス

第二十七 政府官員ハ其職務服行ニ當リ犯セル奸私及ヒ緩慢ノ罪アリテ實ニ其下僚ノ責任スベカラサルモノニ對シ嚴ニ自ラ其責ニ任ス

第二十八 凡ソ國民ハ書文ヲ具シテ訴告請願ヲ立法權及ヒ行政權ニ稟スルコトヲ得又建國法ニ背ケル罪ヲ該權ニ告發シテ該犯ノ首謀ヲシテ自ラ其責ニ任

セシメシトナ當該ノ部官ニ請求スルヲ得

第二十九 建國法ハ公共^{アツクダシス}施濟^{ヒツク}院^{アソク}病院^{アソク}育嬰^{アソク}局^{アソク}貯金^{アソク}預^{アソク}儲^{アソク}ノ徒ヲ救ヲ保固ス

第三十 小學ノ教育ハ全國民ニ對シ其費ヲ課セス

第三十一 建國法ハ世傳ノ貴族及ヒ其ノ特典ヲ承認^{ゾロカチテ}ス

ス

第三十二 諸藝文學技術ノ大旨ヲ教授スヘキ中學及

ヒ大學校ヲ置クヘシ

第三十三 大權ハ次項ニ指定スル時機形勢ヲ除キ建

國法及ヒ工業^{ドロアサン}權^{シントリ}自由ニ工業ノ保固ヲ閣置スルヲ

得ヘカラス

第三十四 騷亂若クハ敵國侵入ノ時機ニ際シ國安ノ

爲ニ各個ノ自由ヲ保固スル例規ノ幾分ヲ定期間閣

置スルヲ要スルキハ立法權ヨリ發布スル特別ノ

命令ニ因リ之ヲ行フヲ得ヘシ然レモ此時國會^所謂

立法方ニ開會セスシテ國難最モ急ナレハ已ムヲ得

サル措置トシテ政府假リニ前文ノ處分ヲナスヲ得

得ヘシ但シ此處分ヲ證明シタル急難方サニ止ムニ

及バ、速カニ其執行ヲ停ム又何レノ場合ニ於テモ

政府ハ自カラ命令シタル拿捕其他ノ豫防策ヲ證明

シタル報告書ヲ國會集合ノ後即時ニ之ヲ送付スベシ及ヒ凡ソ該拿捕其他ノ豫防策ヲ執行スルノ命令ヲ受ケタル諸部官ハ皆其行フタル奸私ノ責ニ任スベシ

葡萄牙國憲 畢

謬誤追正

四 第四行

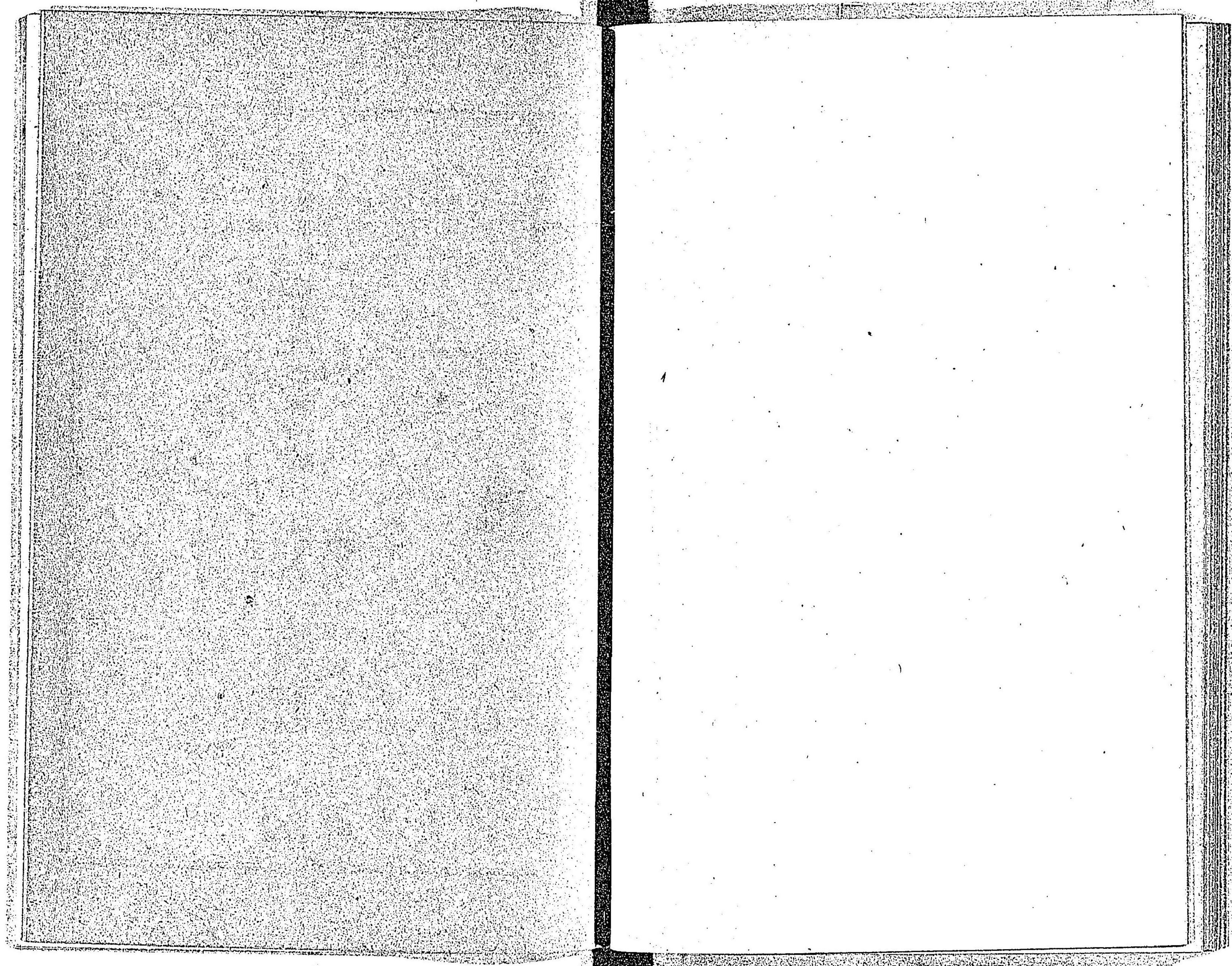
〔シラン〕ハ〔シアン〕ノ誤

六十四 第七行

條〔コ〕ハ〔チ〕ノ誤

七十六 第三行

〔ノ〕ハ〔チ〕ノ誤



荷蘭國憲

佛國ラフエリエール 纂輯

同ハトビ 訂正

大書記生 田中耕造 譯述

權大書記官河津祐之 校閱

荷蘭王國國憲 千八百十五年ニ公布シ千八百四十八年ニ改正ス

第一篇 王國及ヒ王國ノ人民

第一條 歐羅巴州ニ於ル荷蘭王國ハ現今左ノ數州ヲ以テ
成ル

北
ブラ
バン

グエルドル

南荷蘭

北荷蘭

ゼーランド

ユトレクト

フリーズ

オベリッセル

グロニング

ドラント

ランブール公國(日耳曼聯邦ト該公國トノ關係ヲ除キ

テ云フ但シ「マストリクト堡」ハ「バノロ堡」及ヒ此二堡ノ線

域ハ此關係ニ入ラス(「ランブール州」ハ「ランブール公

合ス故ニ此地ハ州内ニアレル公國內ニ

第二條 州及ヒ邑ハ法律ヲ以テ分合スルヲ得

王國及ヒ州邑ノ境界ハ法律ヲ以テ變易スルヲ得

第三條 内外國人ヲ論セス凡ソ王國ニ在居スル人民ハ其

身体財産ノ保護ヲ享受ス

外國人ノ准入若シハ逐出及ヒ外國政府ト解回犯約^{トレーター、テキストランシラン}他國

之ヲ其本國ニ引渡ス約ヲ乞フキヲ結フヲ得ヘキ概則ハ法

律ヲ制シテ之ヲ定ム

第四條 民權ノ受用ハ法律ヲ以テ定ム

第五條 政權ヲ享有スルニハ荷蘭國民タルヲ要ス

第六條 凡ソ荷蘭國民ハ文武官吏タルヲ許ス外國人ハ

法律ニ由ルノ外荷モ官ニ拜スルヲ得ス

第七條 法律ハ荷蘭國民ノ分限ヲ定ム

外國人ハ法律ニ由ルノ外歸化ヲ得ルヲ能ハス

第八條 國民ハ各々前許ナクモ印刷ニ因テ其思想若クハ

論說ヲ公ニスルヲ得但シ法律ニ對シテ其責ニ任スヘ

シ

第九條 凡ソ王國民ハ各自ニ上言書ヲ當該ノ官廳ニ呈ス

ルノ權ヲ有スレモ連衆一名ニテ之ヲ爲スヲ得ス但シ法

ニ循ヒ設立シタル社會又ハ法ニ循ヒ設立スト認メタル

社會ニ限リ連衆一名ニテ上言スルヲ許ス然レモ此場

合ニ於テハ該社會ノ職掌トスル處ノ件ニ由ルノ外上言

スルヲ許サス

第十條 國民ハ結社シ及ヒ集會スルノ權ヲ有ス

法律ハ國家平寧ノ利ヲ商リテ結社集會スル權ノ受用ヲ

規定限畫ス

第二篇 國王

第一款 王位相續

第十一條 荷蘭國王ノ位ハ「オランジュ、ナツソ」公維廉非
德黎陛下ニ屬ス及ビ左條ノ條規ニ準シ維廉正統ノ裔ニ
世傳ス

第十二條 現今統御スル國王正統ノ裔トハ普魯士ノ公主
「フレデリク、ルユイズ、ウイルエルミス」皇后ト今王ノ婚姻
ニヨリ降誕シ又ハ降誕スヘキ王子、及ヒ國會ト共議シテ
今王ノ契約シ又ハ承認シタル婚姻ニヨリ生産シタル苗
裔ヲ謂フ

第十三條 王位ハバルシプレサンダシオン大宗承重ノ權ニ由リテ世傳ス故ニ今王
太子若クハ其男統ノ裔入リテ嗣ク

荷

第十四條 太子男統ノ裔缺クル時ハ亦太宗承重ノ權ニ因
リ王位ヲ太子ノ兄弟若クハ兄弟ノ男統ノ裔ニ傳フ

第十五條 「オランジュ、ナツソ」家ノ男統ノ裔全ク無キハ
ハ太宗ノ席ニ由リ王位ヲ王女ニ傳フ

第十六條 王女無キ時ハ王ノ長男統ノ長女王位ヲ繼テ之
ヲ其家ニ從ス謂フハ王位、該長女ノ嫁該長女ノ既ニ死シ
タル場合ニ於テハ其子孫入テ嗣ク

第十七條 王ノ男統ナキハ王位ヲ其長女統ニ傳フ是故
ニ男統ハ常ニ女統ニ先チ長統ハ季統ニ先タツ各統ニ於
テハ男ハ女ニ先タチ兄ハ弟ニ先タチ姉ハ妹ニ先タツ

第十八條 國王殂シテ子ナク及ヒオランジユ、ナツソ一ノ家ノ男統ノ裔有ラザルキハ王ノ最近親族其缺シルハ該最近親族ノ裔入テ位ヲ嗣ク

第十九條 女子王位ヲ他家ニ徙シタル時該家ハ全ク現時統治スル家ニ屬スル權理ヲ占有ス及ヒ前數條ニ掲グル例規ハ之ヲ新タニ入嗣スル家族ニ施行スベシ是故ニ該家男統ノ裔ハ女子若クハ女統ヲ捨キテ王位ヲ襲ク及ビ男統ノ裔全ク缺クルニ非サル外他統ノ裔ニ王位ヲ傳フルコト得ス

第二十條 國會ノ承認ナクシテ婚姻スル王女ハ入嗣ノ權

ヲ失フ

女王ハ國會ノ承認ナク婚姻ヲ約スレハ其位ヲ失フ

第二十一條 現今統御スル「オランジユ、ナツソ」家ノ維廉非德黎王ノ後裔ナキハ故トノ「ブランズウイグ、ルユテ

グール」公查理シアーリル、シアルシユ若爾日オグ奧占士都ノ未亡人タル王妹「フレデリク、ルユイズ、ウイルユルミヌ、ドランシユ」若クハ第十二

條ノ例規ニ準シテ約シタル婚姻ヨリ、生シタル該王妹正統ノ裔ニ王位ヲ傳フ

第二十二條 該王妹ノ正統裔缺クルキハ故トノ第五世維廉ノ妹ニシテ故トノ「ナツソ」ウユルグール公ノ妃タリ

シ「カロリス、ドランシユ」ノ王統男子ニ王位ヲ傳フ但シ必
ラス太宗承重ノ權ヲ以テス

第二十三條 特殊ノ時機ニ遇ヒ王位傳讓ノ序次ヲ變易ス
ルコト必須トスル時國王ハ其法案ヲ國會ニ示スコト得
國會ハ建國法ノ修正ニ管スル第九十六七九ノ三條ニ
定メタル方法ニ準シ該法案ヲ論議スベシ

第二十四條 建國法ニ循ヒ入嗣スル者ナキハ前條ノ例
規ヲ施行スヘシ

國王歿シテ未タ世嗣ヲ命セス又ハ其在ラサルキハ平例
ノ員數ヲ倍シテ召集シタル國會ノ兩院合議シテ世嗣ヲ

冊立ス 兩院合議トハ兩院
一所ニ會スルヲ云

第二十五條 第二十一二三四條ニ掲グル場合ニ於テハ第
十二三四五六七八九條ノ例規ニ照シテ入嗣ヲ定ム

第二十六條 荷蘭國王「ハルユキザンブル」ノ公位ノ外別
ニ位爵ヲ有スルコト得ス
何レノ場合ニ於テモ政府ヲ王國外ニ移スコト得ス

第二款 國王ノ歳入

第二十七條 千八百二十二年八月二十六日ノ法律ヲ以テ
國王ニ獻納シ千八百四十八年ニ於テ國王ヨリ王領ノ名
義ヲ以テ政府ニ還附セル所領ノ收入ノ外ニ國王第二世

維廉荷蘭今父王ナリハ國庫ヨリ一百万「フロラン」貨幣ノ
歲入チ收受ス

國王ノ歲入ハ每即位ノ時法律ニ由テ之ヲ定ム

第二十八條 冬夏兩殿ハ王國ノ用ニ供スヘシ但シ每歲國

庫ヨリ給スル所ノ其修補金ハ五萬「フロラン」ニ除ユヘカ

ラス

第二十九條 國王及ヒ太子ハ悉皆人稅ヲ蠲除ス然レモ其

他ノ諸租稅ハ皆之ヲ納レサルヘカラス

第三十條 國王ハ其意ニ隨ヒ其家事ヲ規準ス

第三十一條 先王ノ遺物ヲ相續スル權チ有スル皇后ハ其

婦居スル間國庫ヨリ十五萬「フロラン」ノ歲入チ收受ス

第三十二條 王ノ長子若クハ王位チ入嗣スヘキ男統親ハ

國王ノ第一等臣下ニシテ「オラジユ」公ノ尊稱チ有ス

第三十三條 「オラジユ」公即チ太子ハ齡ヒ滿十八歲ニ及ヒ國

庫ヨリ十萬「フロラン」ノ歲入チ收受ス但シ建國法第十二

條ニ準シ其婚ヲ約スルキハ歲入ノ額チ倍シテ二十萬ト

ナス

第三款 國王ノ太保チユテール

第三十四條 國王ハ滿十八歲ニ至ルチ以テ成年ト定ム

第三十五條 國王ノ未成年ノ間ハ王族數員及ビ荷蘭國ノ

顯貴數員ヲ以テ之ガ太保ニ任ズ

第三十六條 太保ノ職ハ法律ヲ以テ授任規定ス

國會ハ兩院合議シテ太保ノ職ヲ授クル法律ヲ公評ス

第三十七條 太保ノ職ヲ授クル法律ハ世嗣ノ未成年ナル

キハ國王ノ存生中ニ之ヲ公評ス若シ未タ之ヲ行ハザル

ニ國王殂落スレハ太保ノ職ノ規則ニ關シ未成年ナル嗣

王ノ數最近親族ノ意見ヲ問フヘシ

第三十八條 太保ハ其職ニ就クノ前兩院集合シタル國會

ニ於テ其議長ニ左ノ誓詞ヲ述べ或ハ其約ヲ立ツ

「予ハ國王ニ忠誠ナルコトヲ誓フ 或ハ予ハ太保ノ職タルニ

由リテ負フ處ノ總義務ヲ固ク履行スルコトヲ誓フ 或ハ且

特ニ建國法ヲ遵踐シ及ヒ國民ヲ愛撫スルコトヲ國王ニ啓

沃スルコトヲ誓フ 或ハ故ニ願クハ神明ノ予ヲ惠センコトヲ

或ハ予レ
之ヲ約ス」

第三十九條 國王親ラ政ヲ聽ク能ハザルノ狀アルキハ未

成年ナル國王ノ太保ニ關スル第三十六條以下ノ例規ニ

準シ王躬監護ノ法ヲ規定スヘシ

第四款 攝政ノ職

レシヤンス

第四十條 國王未成年ノ間ハ攝政官へ王權ヲ受用ス

第四十一條 攝政官ハ法律ニ由テ任命ス但シ該法律ヲ以

テ國王未成年ノ間攝政職ノ承繼ヲ規定スルヲ得
該法律ハ兩院集合シタル國會ニ於テ公評ス
嗣王未成年ノ場合ニ於テハ今王ノ存生中ニ該法律ヲ制
定スヘシ

第四十二條 國王政ヲ親ラスルヲ能ハサル狀アルキハ亦
攝政官王權ヲ受用ス

參議院ハ各省長官ト會議シ審サニ查調シテ國王政ヲ親
ラスルヲ能ハサル時機アルヲ徵憑スルノ後即時ニ平
例ノ員數ニ倍スル國會ヲ召集シテ之ニ其報告書ヲ送致
ス

第四十三條 國會ハ參議院ノ報告書ヲ查檢シ及ヒ平例ノ
員ヲ倍シ兩院集合シタル會議ノ決定ニ因リ其確實ナル
ヲ認メタルキハ端式ニ循ヒ公布シタル法律ヲ以テ前
條ニ掲ケタル時機アルヲ宣告ス

第四十四條 國王政ヲ親ラスルヲ能ハサルキ太子滿十八
歳ナラサシハ其滿十八歳ニ至ル迄第四十一條ニ準シ攝
政官ヲ設ク

第四十五條 攝政官ハ兩院集合シタル國會ニ於テ議長ニ
左ノ誓詞ヲ述ヘ若クハ其約ヲ立ツ
「予ハ國王ニ忠誠ナルヲ誓フ或ハ予ハ國王未成年ノ

間ハ國王政ヲ親ラスル王權ヲ受用スルニ於テ常ニ
 建國法ヲ遵奉固守スヘキヲ誓フ或ハ予ハ吾カ全權
 ナ以テ王國ノ獨立ト王國ノ完全トヲ守リ并ニ公共ノ
カンシクリテイ
 自由各個ノ自由ヲ護守シ全王臣及ヒ各王臣ノ權理ヲ
 固保シ總般及ビ各自ノ繁榮ヲ護擁スルタメ凡ソ忠貞
 ノ攝政官トナリテ當ニ竭スヘキ所ヲ願ミ法律ニ許セ
 ル諸方法ヲ施用スルヲ誓フ或ハ
 故ニ神明ノ予ヲ惠センヲ祈ル或ハ予レ
 之ヲ約ス」
 第四十六條 第四十二條ニ掲クル場合ニ於テ太子ノ齡ヒ
 既ニ滿十八歳ナルハ太子ヲ以テ當然ノ攝政官トナス

第四十七條

第四十二條

攝政官政柄ヲ握ルノ日ニ至ルマテハ第四十二條ノ例規
 ニ照シテ構制シタル參議院各省ノ長官ト合併スルヲ云フ王權ヲ受用
 ス
 國王殂シテ未ダ幼冲ノ嗣主ヲ代理スヘキ攝政官ヲ任命
 セザルハ又ハ嗣主ナキハ任命シタル攝政官若シハ嗣
 主政柄ヲ把ルノ日ニ至ルマテ前項ノ如キ參議院王權ヲ
 受用ス
 參議院ノ僚員ハ其親ヲ推選シタル議長ニ又議長ハ兩院
 集合シタル國會ニ左ノ誓詞ヲ述ヘ若シハ其約ヲ立ツ

朕ハ王國ノ憲法ヲ保守スルヲ荷蘭國民ニ誓フ或ハ約ス
 朕ハ朕カ全權ヲ以テ王國ノ獨立ト王國ノ完全トヲ守
 リ并ニ公共ノ自由各個人ノ自由ヲ護守シ朕カ臣民ノ總
 般及ヒ各自ノ權理ヲ固保シ總般及ヒ各自ノ繁榮ヲ保
 有増益スルガタメ善良ナル國王ノ當ニ竭スヘキ所ヲ
 願ニ法律ニ許セル諸方法ヲ施用スルヲ誓フ或ハ約ス
 故ニ願クハ神明ノ予ヲ惠センヲ或ハ予レ
 第五十二條 此誓詞ヲ宣ヘ若クハ契約スルノ後國王ハ國
 會ノ集合スル序ニ於テ即位ノ禮ヲ行フ是ニ於テ國會ノ
 議長ハ左ニ掲クル告白ヲ陳ス而シテ議長及ヒ全議員各

荷

々自ラ左ノ誓若クハ約ヲ以テ其告白ヲ證ス左ニ掲クル
 國民以下即位ヲ行フノ儀ニ會スルニ至ルマテ
 告白トイヒ其下ヲ誓若クハ約トイフナリ
 荷蘭國民ノ名ヲ以テシ及ヒ建國法ニ依リ我輩陛下ヲ
 戴キ王トナシ即位ヲ行フノ儀ニ會ス我輩陛下ノ神聖
 不侵ナルト陛下ノ主權トヲ擁護スヘキヲ誓フ或ハ約ス
 輩忠良ナル國會ノ當ニ竭スヘキ諸般務ヲ行爲スルヲ
 誓フ或ハ約ス
 故ニ願クハ神明ノ我輩ヲ惠助センヲ或ハ我輩
 第六款 王權
 第五十三條 國王ハ侵害スヘカラス執政官獨リ責ニ任ス

第五十四條 行法權ハ國王ニ屬ス

第五十五條 國王ハ外國事務ヲ總攝ス

第五十六條 國王ハ戰ヲ宣シ即時ニ之ヲ國會ノ兩院ニ通知ス且國家ノ益利安寧ト相密接スルト思量スル所ノ者ヲ同ク之ニ通照ス

第五十七條 國王ハ外國ト和議ヲ結ビ及ビ其他ノ條約ヲ準定ス

國王ハ國家ノ益利安寧ニ係リ之ヲ要トスルト思量スルハ即時ニ右ノ條約ヲ國會ノ兩院ニ通照ス
歐羅巴洲内若クハ他州ニ於テ王國所屬地ノ局部ヲ讓與

若クハ交易スル條規又ハ凡ソ法ニ準スル權理ニ關スル條規若クハ其修正ヲ含メル條約ハ國會ニ於テ其條規若クハ修正ヲ認可スル後ニ非サルノ外國王之ヲ準定セス

第五十八條 國王ハ陸海軍ヲ指揮シ武官ヲ拜除ス但シ其昇級免黜若クハ退老ハ法律ヲ以テ定メタル例規ニ準シ國王之ヲ決ス

恩賜金ハ法律ヲ以テ限定ス

第五十九條 歐洲外ニ於ケル藩屬地及ヒ所屬地ノ統管ハ國王ニ屬ス

該藩屬地及ヒ所屬地ノ政治ハ法律之ヲ定ム

貨幣條例ハ亦法律ヲ以テ定ム

藩屬地、王國所屬地ニ管スル其他ノ事務ハ時機必要トスル場合ニ際シ法律ヲ以テ之ヲ規定ス

第六十條 國王ハ連歲藩屬地及ヒ所屬地ノ理治及ヒ情形ヲ詳悉ニスル報告書ヲ國會ニ致サシム

藩屬地會計ノ管治及ヒ其理財法ハ國王之ヲ定ム

第六十一條 國王ハ國用ヲ統理シ國庫ヨリ給與スル院寮官吏ノ俸額ヲ畫定ス

司法官吏ノ俸額ハ法律ニ由テ定ム

國王ハ此等ノ俸金ヲ國費預算表ニ登記ス

官吏ノ恩賜金ハ法律ヲ以テ定ム

第六十二條 國王ハ鑄錢ノ權ヲ有ス且其肖像ヲ錢貨ニ鑄ラシムルヲ得

第六十三條 貴族ノ稱ハ國王之ヲ賜與ス

凡ソ荷蘭國人ハ外國貴族ノ稱ヲ受クルヲ得ス

第六十四條 凡ソオールドシニユバレリ俠勇勳級ハ國王ノ建議ニ由リ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 何レノ義務ヲモ負ハシメサル外國ノ勳級ハ國王之ヲ受ルヲ得及ヒ國王ノ承諾アレハ王族モ亦之ヲ受ルヲ得

何レノ場合ヲ論セス王臣ハ國王ノ許允ヲ經スシテ外國ノ勳級爵稱位職ヲ受クルヲ得ス

第六十六條 國王ハ裁判ヲ受ケタル刑罰ヲ輕減スル恩典ヲ行フノ權ヲ有ス

三年以下ノ禁獄ト罰金トヲ單科又ハ併科シタル刑罰ニ係リ國王其之ヲ審判シタル判司ノ意見ヲ聽タルノ後其以上ノ罪ニ於テハ大法院ノ意見ヲ聽キタル後ニ此恩典ヲ行フ

大赦及ヒ赦罪ハ法律ニ由ルニ非スシテ行フヲ得ス

第六十七條 凡ソ特准ハ別段ノ法律ニ由ルニ非サル外國

王之ヲ行フヲ得ス但シ之ヲ該法律ニ揭示シタル時機ニ限ル

第六十八條 國王ハ相互和解スルヲ能ハサル時二州若シハ數州ノ間ニ生スル行政上ノ權限抵觸ヲ裁審ス

第六十九條 國王ハ法律議案ヲ國會ニ出シ及ヒ其他自ラ適宜ト思量スル起議ヲ國會ニ下附ス

國王ハ國會ヨリ上奏シタル起議ヲ允否ス

第七十條 國王ハ同時ニ又ハ別々ニ國會ノ兩院ヲ解散スルノ權ヲ有ス

國會解散ノ布令ハ同時ニ四十日內ニ新議院ノ撰舉及ヒ

二月内ニ該議院ノ召集ヲ命ス

第七款 參議院及ビ各省

第七十一條 參議院ノ構制權限ハ法律ヲ以テ定ム

國王ハ參議院ニ上席シ該院ノ議員ヲ拜任ス

太子ハ滿十八歳ニ至リ參議院ニ班加シボアゴシニユルタナリフ評議ノ權ヲ有ス

第七十二條 國王ハ國會ニ下附セントスル起議、國會ヨリ

國王ニ上奏シタル起議及ビ凡ソ王國ノ内治、歐州外ニ於

ル王國所屬地ノ政治ニ管スル條則チ參議院ノ議ニ附ス

凡ソ法律及ヒ王勅ノ書首ニハ參議院與聞ス」ト書記ス

國王ハ凡ソ自ラ須要ト思量スル一般ノ利益又ハ特殊ノ

利益ニ管スル事般ニ於テ參議院ノ意見ヲ問フ「決議ノ權
ハ獨リ國王ニ在リ及ヒ國王ハ親ラ決議スルコトニ各々
之ヲ參議院ニ通示ス

第七十三條 國王ハ諸省ヲ設置シテ其長官ヲ命シ及ヒ隨

意ニ之ヲ免黜ス

諸省長官ハ國王ニ屬スル執行ノ權限ヲ守リ建國法及ヒ

其他法律ノ執行ヲ看守ス

諸省長官ノ任責ハ法律ヲ以テ定ム

凡ソ國王ノ決定及ヒ處分ニハ諸省長官ノ一人之ヲ副署ス

第三篇 國會

第一款 國會ノ設置

第七十四條 國會ハ荷蘭國民ヲ代理ス

第七十五條 國會ハ上院下院ヲ以テ成ル

第七十六條 下院ノ議員ハ王國ヲ區分スル選舉區ニ於テ

民權政權ヲ全有シ及ヒ地方ノ情形ニ循ヒ選舉法ニ因テ

定メタル二十「フロラン」以上百六十「フロラン」以下ノ直税

ヲ納ル、成年ノ荷蘭國人之ヲ選舉ス

第七十七條 國會議員ノ數ハ四萬五千人ニ一員ノ比例ヲ

以テ人口ニ準シテ之ヲ定ム

選舉ノ權ニ係リ遵守スヘキ其他ノ條則ハ選舉法ヲ以テ

定ム

第七十八條 上院ハ議員三十九名ヲ以テ成ル

上院ノ議員ハ邦内ニ於テ直税ヲ出ス「最モ多キ者ヨリ

選用スヘシ

上院ノ議員ニ撰マルヘキ多ク直税ヲ納ル、者ノ員數ハ

每州人口三千ニ該院ノ議員タルガタメ必要トスル他ノ

約款ヲ備有シタル國民一員ヲ撰ブヲ以テ定制トナス

他ノ約款トハ下院ノ議員タルガタメ必要トスル約款ニ

同シ

上院ノ議員ハ左ノ比例ニ由リ州會ニ於テ之ヲ選舉ス

北オランダ	一員
グエルドル	二員
南荷蘭	七員
北荷蘭	六員
ゼーランド	二員
ユトレクト	二員
フリース	三員
オベリッセル	三員
グロニンク	二員
ドラント	一員

ランブール

三員

計三十二員

州ヲ合併シ若クハ分離シタル場合ニ於テハ之ヲ分合セ
ル法律ニ因リ上院ノ議員選舉ノ比例ヲ改正ス

第二款 國會ノ下院

第七十九條 下院ノ議員ニ選舉セラル、ニハ荷蘭國民ニ
シテ民權政權ヲ全有シ齡ヒ滿三十歳ナルヲ要ス

第八十條 數選舉區ニ於テ上院若クハ下院ノ議員ニ選マ
レタル者又ハ同時ニ兩院ノ議員ニ選マレタル者ハ何レ
ノ選舉ヲ擇ムヤヲ陳述ス

第八十一條 下院ノ議員ハ四歲間其職ニ任ス

下院ハ議員更迭ヲ規定スベキ順次ニ循ヒ二歲コトニ其
全員ノ半數ヲ更撰ス

前任ノ議員ハ再ビ選ニ當ルヲ得

第八十二條 議員ハ自ラ誓ヒ自ラ欲スル所ニ隨テ公評シ

委任狀ヲ受ケス及ヒ親ラ公評セントスル處ノ件ヲ其選
舉人ニ稟議セス

第八十三條 議員ハ其任ニ就クニ當リ各々奉スル所ノ宗
教ノ儀式ニ準シ左ノ誓詞ヲ述ヘ又ハ其約ヲ立ツ

「予ハ建國法ニ順從スルヲ誓フ
或ハ
約ス

故ニ願クハ神明ノ予ヲ惠センヲ或ハ予ノ
之ヲ約ス

議員ハ左ニ掲クル誓詞ヲ述ベ又ハ其告白、契約ヲ行フノ
後ニ右ノ誓約ヲ立ルヲ得

「予ハ國會下院ノ議員ニ選舉サル、ガタメニ縱令如何
ナル託辭ニ於テスルモ在職若クハ無職ノ人ニ對シ或
ハ親ラ或ハ人ニ頼リ苟モ苞苴ヲ行ヒ又ハ之ヲ約セシ
ヲナク且後日此ノ如キノ行事アラザルベキヲ誓フ或
ス告白

予ハ縱令何人ヲ論セス又ハ何ノ託辭アルヲ待タス凡
ソ其職事ノ執行ヲ爲シ又ハ爲サ、ルカ爲メニ或ハ親

ラ或ハ人ニ頼リ苟モ苞苴ヲ受ルコトナキヲ誓フ或ハ
 故ニ願フハ神明ノ予ヲ惠セシメテ或ハ予レ之ヲ告白
 右ノ誓詞又ハ右ノ告白及ヒ契約ハ國王ニ對シ又ハ下院ノ會ニ於テ
 之カタメ國王ノ准允ヲ得タル議長ニ對シ之ヲ述フ
 第八十四條 議長ハ下院ヨリ奏上スル應撰人三員ノ姓名
 表ニ因リ一會期間國王選用シテ其職ニ任ス
 第八十五條 議員ハ會期コトニ道路ノ遠近ニ應シ法律ヲ
 以テ定メタル旅費ヲ領受ス
 議員ハ別ニ毎歲二千「フロラン」ノ償給ヲ領受ス
 全會期間不在ノ議員ハ其會期ニ於テ右ノ償給ヲ受ケス
アンタムニデー

第三款 國會ノ上院

第八十六條 上院ノ議員ハ九年在職ス
 上院ハ議員更迭ヲ定ムヘキ順次ニ循ヒ三歲コトニ其議
 員ノ三分一ヲ更撰ス
 前任ノ議員ハ直チニ再ヒ選ニ當ルコトヲ得第八十二條ハ
 上院ノ議員ニ準用スヘシ
 議員ハ其任ニ就クニ當リ下院ノ議員ノ爲ニ定タル誓詞
 又ハ告白及ヒ契約ヲ國王ニ述フ
 議員ハ法律ヲ以テ定メタル旅費及ヒ滞在費ヲ受ク
 第八十七條 國王ハ會期間上院ノ議長ヲ撰任ス

第四款 兩院ニ通用スル條則

第八十八條 上下兩院ノ議員ニ兼任スルヲ得ス

第八十九條 各省長官ハ兩院ノ議ニ參加ス然レモ其兼テ

上院又ハ下院ノ議員タル時ヲ除ク外ハ獨リ評議ノ權

ヲ有スルノミ

各省長官ハ議院ノ求メニ應シ之ヲ通照スルモ王國又ハ

歐洲外ニ於ケル藩屬地ノ利益安寧ニ戾ラスト思量スヘ

キ案據ヲ言詞若クハ書文ニ因テ該議院ニ報知ス

是レカ爲メニ各院ニリ各省長官ヲ招テ其會議ニ出席セ
シムルヲ得

第九十條 下院ハ法律ヲ以テ定ムヘキ探討ノ權ヲ有ス

第九十一條 國會ノ議員ハ大法院ノ僚員若クハ大檢事統

計院ノ僚員州ニ差遣スル國王ノ理事官及ヒ僧侶ノ職ニ

兼任スルヲ得ス

當務ノ武官ニシテ上院若クハ下院ノ議員ニ任スル者ハ

其奉職ノ間非役官トナス既ニ議員ノ列ヲ去レバ更ニ軍

務ニ復ス

選舉會ニ上席スル官吏ハ其上席シタル區ニ於テ議員ニ

選舉セラルヘカラス

官俸ヲ受クル職務ヲ奉シ又ハ官吏ニ登用ヲ得タル國會

ノ議員ハ議員タルヲ罷ム然レモ即時ニ之ニ重選サルハ
ヲ得

第九十二條 兩院ノ議員ハ會議ニ於テ發言スル所ノ論議
ノタメニ司法上ノ手續ヲ以テ糾治スルヲ得ス

第九十三條 上下各院ハ新タニ選派セル議員ノ權任ヲ監
査シ及ヒ議員ノ權任若クハ其選舉ニ關シ起リタル爭訟
ヲ裁審ス

第九十四條 各院ハ其員外ノ者ヲ採リテ書記官ニ任命ス
第九十五條 國會ハ少ナクモ毎歲一回會議ヲ開ク

通常會期ハ九月第三ノ月曜日ニ開ク

國王ハ自ラ須要ト思量スルモ兩院ヲ召集シテ臨時會期
ヲ開ク

第九十六條 凡ソ兩院ノ會議ハ其兩院ノ議員合議スルト
否ヤチ問ハス公行トス

兩院ハ其議員十分ノ一之ヲ求メ又ハ議長之ヲ須要トス
ルモ秘密會議ヲ爲ス

議會ハ秘密會議ニ於テ論議スヘキヤ否ヤチ決ス
秘密會議ニ於テ論シタル議事ハ亦秘密會議ニ於テ決定
スルヲ得

第九十七條 國王歿シ又ハ其位ヲ辭スルニ當リ會々國會

ノ開會セサルキハ預メ召聚ノ命ナクモ直チニ親ラ集會ス

此臨時會期ハ國王殂シ若クハ辭位ノ後第十五日ニ開ク
兩院會解散シタルキハ新選舉ヲ終リタル日ヨリ其期ヲ
數フ

第九十八條 國會ノ會期ハ兩院集合ノ會議ニ於テ國王若
クハ王ノ代理官之ヲ開ク國王國益ノタメ會期ヲ繼續ス
ルヲ要セスト思料スルキ閉會スルモ亦同一ノ方法ヲ
以テス

國王第七十條ニ掲クル權理ヲ使用スルニ非ル外通常會

期ハ少ナクモ二十日間ニ及フ

第九十九條 國王ハ兩院又ハ其一院ノ解散ヲ命スルキ併
セテ國會ノ閉會ヲ令ス

第一百條 兩院ハ議員ノ半數以上出會スルノ外各別ニ又ハ
合同シテ論議決定スルヲ得ル

第一百一條 凡ソ決チ舉ルハ投票ノ過半數ヲ以テス
論議兩立スルキハ決定ヲ後會ニ附ス
該會又ハ總議員出席ノ議會ニ於テ論議猶ホ兩立スル時
ハ其起議ヲ斥ク

第一百二條 公評ハ名ヲ呼ビ高聲ヲ舉テ之ヲ行フ獨リ應撰

人ノ選舉及ヒ推薦ハ暗票スケルユタシセクレヲ以テス

第三百三條 兩院集合ノ會議ニ於テハ兩院ヲ以テ一箇ノ議會ト見做ス且議員ハ坐位ヲ占ムルニ上下院ノ別ヲ存セス

上院ノ議長ハ兩院集合ノ首長ニ任ス

第五款 立法權

第四百四條 立法權ハ國王及ヒ國會合同シテ之ヲ行フ

第四百五條 國王ハ其理由ヲ陳スルメツナシユ宣旨ヲ以テシ又ハ委員

ニ任シテ法律議按又ハ其他ノ起議ヲ下院ニ附ス

第四百六條 下院ハ定時ニ抽籤ノ法ヲ用ヒテ更撰スル議員

ヲ分任シタル各課ニ於テ調査スルノ後ニ非レハ國王ノ

下附スル何レノ起議ト雖ヒ總會議ニ於テ討論セス

第四百七條 下院ハ國王ノ起議ヲ改竄スルノ權ヲ有ス

第四百八條 下院ニ於テ改竄スルコトナク若クハ改竄シテ議

按ヲ採用スルハ左ノ例文ヲ添テ之ヲ上院ニ送移ス

「國會ノ下院ハ別冊國王ノ議按ヲ上院ニ送移ス且之ニ
諧合スヘシト思考ス」

下院ニ於テ國王ノ議案ヲ斥ケタルハ左ノ例文ヲ併セ
テ之ヲ國王ニ奏聞ス

「國會ノ下院ハ王ノ能ク國益ニ注意スルノ厚キヲ感戴

ス且謹ンテ該議案ヲ再思ニ附センコトヲ上請ス」

第九條 上院ハ第六條ニ準シ下院ニ於テ諧合シタル

國王ノ議案ヲ論議ス

上院ハ該議案ニ合意シタルキ左ノ例文ヲ以テ之ヲ國王

ニ奏上シ下院ニ通知ス

國王ニ奏上スルノ文

「國會ハ王ノ能ク國益ニ注意スルノ厚キヲ感戴ス及ヒ

別冊ノ議案ニ諧合ス」

下院ニ通知スル文

「國會ノ上院ハ某月日下院ヨリ送移セシ某件ニ管スル

國王ノ起議ニ諧合セシコトヲ下院ニ通知ス」

上院ハ國王ノ起議ニ諧合スルコトヲ得サルキ左ノ例文ヲ

以テ之ヲ國王ニ奏上シ及ヒ下院ニ通知ス

國王ニ奏上スル文

「國會ノ上院ハ王ノ國益ニ注意スルノ厚キヲ感戴ス且

謹ンテ該起議ヲ再思ニ附センコトヲ上請ス」

下院ニ通知スル文

「國會ノ上院ハ某月日下院ヨリ送移セシ某件ニ管スル

起議ヲ更ニ再思ニ附センコトヲ謹ンテ國王ニ上請セシ

コトヲ下院ニ通知ス」

第一百十條 國會ハ法律議案ヲ國王ニ奏上スルノ權ヲ有ス
 第一百十一條 前條ニ掲クル起草ノ權ハ特ニ下院ニ屬ス但
 シ下院ハ國王ノ起議ニ係リ定メタル規式ニ準シテ法律
 議案ヲ論議シ之ヲ許認シタルキハ左ノ例文ヲ添テ之ヲ
 上院ニ送移ス

「國會ノ下院ハ別冊ノ議案ヲ上院ニ送移ス及び國王ニ
 之カ制可ヲ上請スヘシト思考ス」

第一百十二條 上院ニ於テ定式ニ循ヒ論議スル後法律議案
 ノヲ許認スルキハ左ノ例文ヲ添ヘテ之ヲ國王ニ奏上ス

「國會ハ親テ國益ニ適合セリト思量スル別冊ノ議案ヲ

國王ニ奏上ス伏テ願フハ陛下ノ之ニ制可ヲ與ヘンコ
 ナ」

上院ハ左ノ例文ヲ以テ議案ヲ承認セシコトヲ下院ニ通知
 ス

「國會ノ上院ハ某件ニ管スル某ノ議案ヲ許認シ及び國
 會ノ名ヲ以テ之ヲ制可センコトヲ國王ニ上請セシコトヲ
 下院ニ通知ス」

上院ハ議案ヲ許認セサルキハ左ノ例文ヲ以テ之ヲ下院ニ
 通知ス

「國會ノ上院ハ別冊ノ議案ヲ制可センコトヲ國王ニ上請

スヘキ充分ノ理由ヲ認トメス」

第百十三條 法律議按ヲ除クノ外兩院ハ各別ニ其他ノ諸起議ヲ國王ニ奏上スルヲ得

第百十四條 國王ハ務メテ急ニ國會ヨリ奏上セル法律議案ノ允否ヲ之ニ報知ス但シ其報知ハ左ノ例文ヲ以テス

國王准允ス議案ヲ許又ハ國王討議スヘシ議案ヲ斥

第百十五條 國王及ヒ國會ノ承允シタル法律議案ハ荷蘭

國法ト成ル而シテ國王之ヲ公布ス

國法ハ侵ス可カラズ

第百十六條 國法公布ノ方法及ヒ國法ニ執行ノ力ヲ與フ

ル期限ハ法律ヲ以テ定ム

國法ノ公布ハ左ノ例文ニ依ル

荷蘭國王某此公文ヲ通覽スル汝ヲ衆庶ニ左ニ掲クル

所ノ者ヲ告知ス

某々ノ理由ヲ熟考シ

此緣由ニ依リ參議院與聞シ及ヒ國會ト諧合シテ此公

文ニ掲クル所ノ條則ヲ定メタリ

〔茲ニ法律ノ成文ヲ挿記ス〕

〔某年月日某府ニ於テ公布ス〕

第百十七條 國內施政ノ總則公布ノ方法及ヒ之ニ執行ノ

力ヲ與フル期限ハ法律ヲ以テ定ム
第百十八條 建國法及ヒ其他ノ法律ハ特殊ノ條則ヲ掲クル場合ヲ除クノ外獨リ歐州内ノ荷蘭領地ニ於テ執行ノ力ヲ有スルノミ

第六款 歲計豫算表

第百十九條 王國ノ出納豫算表ハ法律ヲ以テ定ム
第百二十條 歲計豫算表ニ管スル法律議案ハ連歲該豫算表ニ係ル前年ニ當リ國會ノ通常會期ヲ開キタル後即時ニ國王ノ名ヲ以テ下院ニ附送ス
第百二十一條 歲計豫算表中支費ノ各章ニハ各省ニ管ス

荷

ル支費ヲ特記ス
支費ノ各章ヲ以テ或ハ一箇ノ法按トナシ或ハ數箇ノ法案トナス法律ヲ以テ此章ヨリ彼章ニ支費ヲ移易スルヲ許認スルヲ得

第百廿二條 每歲ノ出納決算表ハ統計院ニ於テ承認シタル簿冊ニ併セ立法官ニ附送ス

出納^ノ精算^ノ差額ハ法律ニ由テ整頓ス

第四篇 州會及ヒ邑官

第一款 州會ノ設置

第百廿三條 州會ノ議員ハ法律ノ條規ニ循ヒ六歲間其職

ニ任シ第七十六條ニ定ムル約束ヲ備足スル國民之ヲ直撰ス

三歲毎ニ議員ノ半數ヲ更撰ス

第百廿四條 一名ニシテ國會ノ上院及ヒ州會ノ議員ニ兼任シ又ハ同時ニ二州以上ノ州會議員タルヲ得ス

第百廿五條 州會ノ議員ハ其任ニ就クノ前各々其奉スル宗教ノ儀式ニ循ヒ左ノ誓詞ヲ述ヘ又ハ其約ヲ立ツ

「予ハ建國法及ヒ國法ヲ遵奉スルヲ誓フ 或ハ故ニ願クハ神明ノ予ヲ惠センヲ或ハ予之ヲ約ス」

州會議員ハ第八十三條ニ於テ國會ノ議員ニ命シタル誓

詞 或ハ告白若クハ契約ヲ述フルノ後上文ノ誓詞ヲ述フルヲ許ス 或ハ約ヲ立スルヲ許ス

第百廿六條 州會ハ每歲法律ニ定メタル期限ニ於テ集會ス及ヒ國王ノ之ヲ召集スルハ臨時會議ヲ開ク

會議ハ公行トス然レモ國會ノ會議ニ係ル第九十六條ニ掲クル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第百廿七條 州會議員ハ自ラ誓ヒ自ラ欲スル所ニ隨テ公評シ委任狀ヲ受ケ及ヒ親カラ公評セントスル所ノ件ヲ其撰擧者ニ稟議スルヲナシ

第百廿八條 凡ソ論議及ヒ公評ニ管スル件ニ於テハ第百

條百一條百二條ニ於テ國會ノ兩院ニ對シ定メタル例則
ヲ準用ス

第二款 州會ノ職任

第百廿九條 州會ハ每歲其職任トスル政務ノ支費ヲ國王
ニ奏上シ其准允ヲ得ルニ及ヒテ之ヲ州ノ歲計豫算表ニ
登記ス

州會ハ每歲特ニ該州ノ出納豫算表ヲ公評シテ國王ノ准
允ヲ請フ

州費ニ供備スル州ノ租稅ハ國王ニ奏上シ法律ニ由テ許
准ヲ受クヘシ

第百三十條 州會ハ法律ニ揭示シ及ヒ國王親ラ州會ニ委
任スルヲ有益ト思量スル内國總政ノ部分ニ關スル法律
及ヒ王勅ノ執行ニ任ス

第百三十一條 法律ハ州ノ構制及ヒ州政ニ係リ州會ノ職
任ヲ規定ス

州益ノタメニ定メタル王勅及ヒ條例ハ第百二十九條ニ
掲クル條則ヲ除クノ外國王之ヲ准允スヘシ

州會ハ州内ノ輸出入及ヒ通運ニ妨碍ナキヲ看守ス

第百三十二條 州會ハ邑官ノ爭訟ヲ勸解ス若シ之ヲ勸解
スルヲ能ハスシテ其行政權抵觸ニ係ルキハ國王ノ決裁

ヲ仰シ

第三百三十三條 國王ハ法律若シハ國益ニ戻レル州會ノ布令ヲ停閣シ又ハ取消スヲ得

法律ハ此停閣若シハ取消ヲ行フヨリシテ生シタル關係ヲ規定ス

第三百三十四條 州會ハ國王及ヒ國會ニ對シ其州ノ土地人民ニ係ル益利ヲ論辨護保スルヲ得

第三百三十五條 法律ハ州會ニ屬スル權任ノ受用ヲ規定ス
第三百三十六條 州會ハ法律ノ條規ニ循ヒ其會期間及ヒ其

閉會ノ間庶務ノ管理執行ニ屬スル事般ヲ掌トル常設委

デビムタシテハルマ

員ヲ其議員中ニ選用ス

第三百三十七條 國王ハ州コトニ王勅ノ執行及ヒ州會ヨリ

發出スル布令ノ監察ニ任スル理事官ヲ拜命ス

コンミセル

理事官ハ州會及ヒ常設委員ノ會議ニ上席ス但シ常設委員ノ會議ニ於テハ決議ノ權ヲ有ス

第三款 邑官

第三百三十八條 邑官ノ設置構制及ヒ權任ハ州會ニ問議シ

且次ノ數條ニ定メタル條則ヲ遵踐シテ法律之ヲ定ム

第三百三十九條 邑ニハ各々一邑會ヲ置キテ其理治ニ長トス但シ邑會ノ議員ハ定メタル幾歳ノ間及ヒ法律ニ定メ

タル條規ニ準シ邑民之ヲ直撰ス

國王ハ邑會ノ議長ヲ任命シ及ヒ廢黜ス且ツ邑會議員ノ外ニ該議長ヲ撰用スルヲ得

邑ノ選舉人トナルニハ第七十六條ニ定メタル分限ヲ充備スヘシ但シ選舉人タルカタメニ納ルヘキ直税ノ額ハ同條ニ掲ケタル半數ニシテ足レリトス

第一百四十條 邑會ハ邑政及ヒ邑益ノ事件ヲ規定ス第百三十三條ハ邑會ニ於テ定メタル此條例ニ準用スヘシ但シ邑會ハ此條例ヲ州會ニ通知ス

第一百四十一條 邑領ノ賣買ニ管スル邑官アドミニストラシオン エグゼクティブ即チ邑會ヲノ布

令法律ニ揭示スル民權ノ布令及ヒ邑ノ歲計豫算表ハ州會ノ許允ヲ待ツ

第一百四十二條 邑税ヲ制定改變若クハ廢止シタル邑官ノ布令ハ州會ニ通照ス州會ハ之ヲ國王ニ奏上シテ制可ヲ仰フ

法律ハ邑税ニ管スル總則ヲ定ム
邑税ヲ課スルニ因リテ各邑雙互ノ通運又ハ輸出入ヲ妨碍スルヲ得ス

第一百四十三條 法律ハ亦邑ノ歲計豫算表及ヒ決算表ニ係ル總則ヲ定ム

第四百十四條 邑官ハ國王國會及ヒ州會ニ對シ其邑ニ屬
スル土地人民ノ益利ヲ論辨護保スルヲ得

第五篇 司法權

第一款 概則

第四百十五條 凡ソ裁判ハ全王國ニ於テ國王ノ名ヲ以テ
決行ス

第四百十六條 民法、商法、刑法、訴訟法、治罪法、及司法官ノ構
制ハ全國ニ於テ同均トス

軍事裁判及ヒ護郷兵裁判モ亦法律ヲ以テ之ヲ定ム
租税ニ關スル争訟及ヒ違令ノ裁判モ同ク法律ヲ以テ定

ム

第四百十七條 何人ヲ論セス公益ノ故ヲ以テシ及ヒ其價

直ノ前給アルニ非サレハ私有産ヲ沒收スルヲ得ス

法律ハ豫メ公益ノ故ヲ以テ沒收ヲ要スルヲ公布ス

堡築ノ建營、土堤ノ築作修補ノタメニシ及ヒ傳染病其他

緊急ノ情景ニ際シ前文ニ掲クル公布ヲ必需トセサルヘ

キ時機ハ一般ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム

公益ノ公布及ヒ沒收ノ前給ハ戰時、火災、溢水ニ際シ即時

ニ沒收スルヲ緊要トスルキ之ヲ要求スルヲ得ス然

レモ決シテ沒收ヲ被リタル者ヨリ沒收ノ償ヲ請フノ權

ヲ害毀セズ

第四百十八條 私有權及ヒ該權ヨリ生シタル權理、負債、其他凡ソ民權ニ管スル訴訟ヲ審理スルハ特ニ司法權ニ屬ス

司法權ハ法律ニ定ムル特例ヲ除キ亦政權ニ管スル争訟ヲ審理ス

第四百十九條 司法權ハ法律ヲ以テ定メタル判司特ニ之ヲ執行ス

第四百十條 何人ヲ論セス其志意ニ悖ヒ法律ヲ以テ定メタル判司ヨリ阻隔セラル、ヲナシ

法律ハ行政權ト司法權トノ間ニ生スルヲ得ヘキ權限抵觸ノ裁判ヲ規定ス

第四百十一條 法律ニ定メタル場合ヲ除キ何人ヲ論セス拿捕ノ理由ヲ揭示スル判司ノ命令ニ由ルニ非サレハ囚捕スルヲ得ス

判司ノ命令ハ拿捕ノ時又ハ務メテ急ニ囚捕セラレタル者ニ送致スヘシ

法律ハ判司ノ命令ノ規式及ヒ罪人ノ糺彈ニ従事スヘキ期限ヲ定ム

第四百十二條 特殊ノ時機ニ際シ官荷蘭國民ヲ拿捕セシ

メタルキハ其拿捕ヲ命令シタル者ヨリ即時ニ其旨ヲ地方ノ判司ニ通知シ且三日内ニ囚者ヲ之ニ解送スヘシ
刑事裁判所ハ各々其所管内ニ於テ前文ニ掲ケタル條則ノ確行ヲ監守スヘシ

第一百五十三條 何人ヲ論セス法律ニ由テ其職任アリト定メタル權ヲ以テシ及ヒ法律ニ指定シタル規程ニ於テスルノ外家主ノ意志ニ違ヒテ家屋ニ進入スルヲ得ス

第一百五十四條 郵便若クハ其他送運ヲ掌ル局舎ニ託スル信書ノ秘密ハ侵スヘカラス然レモ法律ニ由リ定メタル場合ニ於テ判司ヨリ特殊ノ免許アルキハ此限ニアラス

第一百五十五條 何ノノ罪科アルモ犯罪者ノ財産ヲ沒収スルヲ得ス

第一百五十六條 凡ソ裁判ハ其理由ヲ説明シ訟庭ヲ開テ之ヲ宣告スヘシ刑事ノ裁判ハ其處斷ノ據憑スル法律ノ條目ヲ掲録ス

訟庭ハ公行トス然レモ國安及ヒ風紀ニ關スルニヨリ法律ヲ以テ定メタル特例ヲ除ク

第二款 オトダケル 大法院及ヒ諸裁判所

第一百五十七條 全王國ニ最上等裁判所一ヶ所ヲ設置シ荷蘭國大法院ト名ク該院ノ僚員ハ第一百五十八條ニ循ヒ定

メタル應撰人姓名表ニ依リ國王之ヲ撰用ス

第百五十八條 大法院ハ缺員アルキ之ヲ國會ノ下院ニ通知ス

國王ハ下院ヨリ奏呈スル五員ノ應撰人姓名表中ニ撰ニテ其缺員ヲ補ス

國王ハ大法院ノ僚員中ヨリ其議長ヲ撰任ス大檢事ノ撰用モ亦國王ノ權ニ屬ス

第百五十九條 大法院ハ國會ノ議員各省長官州長、歐洲外ニ於ル荷蘭王國ノ藩屬地若クハ所屬地ニ在テ州長ト同權ヲ有スル官吏參議院ノ僚員、州ニ差遣スル國王ノ理事

荷

官等其職務ヲ執行スルニ當リ罪アル者ヲ裁審シ及ヒ國王若クハ下院ノ名ヲ以テ之ヲ糾治ス

第百六十條 前條ニ掲クルヨリ他ノ官吏其職務ヲ行フニ當リ罪ヲ犯セハ大法院ヲシテ之ヲ裁審スヘキヤ否ハ法律ヲ以テ指定ス

第百六十一條 國王若クハ王族ヲ被告トスル訴争ハ大法院ニ出願ス然レモ普通判司ニ訴出スヘキ物權アウシホソレールノ訴争ハ此限ニ在ラス

第百六十二條 大法院ハ訴訟ノ舉行裁判及ヒ司法官ノ法律ヲ遵守スルヲ監察ス

大法院ハ法律ニ定メタル例規ニ準シ法律ニ背キタル司法官ノ命令、處分、裁判等ヲ取消スルヲ得

第六十三條 大法院ノ僚員大檢事上等法院及ヒ初告裁判所ノ僚員ハ終身其官ニ任ス

前文ノ官吏及ヒ定期間在職スル其他ノ判司ハ法律ニ定メタル場合ニ於テ裁判ニ由リ免黜スルヲ得又右ノ官員ハ親テ國王ニ退職ヲ請フヲ得

第六篇 法教

第六十四條 凡ソ國民ハ自由ニ其信スル處ノ法教ヲ奉ス但シ刑法ヲ犯スヲ制シテ社會及ヒ社員ヲ保護スルヲ

ハ此限ニ在ラス

第六十五條 凡ソ王國ノ各教會ハ同一ニ政府ノ保護ヲ受ク

第六十六條 各宗派ノ國民ハ皆同一ノ政權民權ヲ享有シ及ヒ爵位官職ヲ拜受スルヲ得

第六十七條 國家ノ平和ヲ保守スル緊要ナル制規ヲ除キ堂屋ノ内裡及ヒ圍閉ノ場地ニ於テ法教ヲ公行スルヲ得

前文ノ制規ヲ除キ凡ソ現今法律條例ヲ以テ許認セル場地ニ於テハ堂屋及ヒ圍閉地ノ外ト雖モ法教ヲ行フヲ得

許ス

第六十八條 現今諸教會及ヒ該會僧侶ノ享有スル俸錢
恩賜金其他ノ收入ハ該教會ニ之ヲ護保ス

現今ニ至ルマテ國庫ヨリ俸錢ヲ享有セサル僧侶ニ俸錢
ヲ給シ俸錢充分ナラサル僧侶ニ不足ノ俸額ヲ増與スル
ヲ得

第六十九條 國王ハ凡ソ教會ノ國法ヲ遵守スルヲ看
守ス

第七十條 各教會ハ其管長ト相往來シ及ヒ政府ノ中保
ナクモ法教ニ關スル諸訓命ヲ公布スルノ權ヲ有ス但シ
ナカ
イリ

法律上ノ任責ハ此限ニ在ラス

第七篇 會計

第七十一條 凡ソ法律ニ依ルニ非レハ國租ヲ定立スル
ヲ得ス

第七十二條 租稅ニ係リ苟モ特准ヲ與フルヲ得ス

第七十三條 政府ヨリ其債主ニ對スル義務ハ保固トス
國債ハ每歲債主ノ益利ヲ量リテ考訂ス

第七十四條 法律ハ貨幣ノ斤量、品性及ヒ其價直ヲ規定
ス

第七十五條 貨幣事務ヲ監護スルヲ及ヒ貨幣ノ品性、檢

查等ニ付テ起リタル等ヲ判決スルヲハ法律ヲ以テ定ム

第七十六條

タルクテコソト 統計院ノ設置及ヒ權任ハ法律ヲ以テ定ム

國王ハ國會ノ下院ヨリ奏上スル三員ノ應撰人姓名表ニ撰シテ統計院ノ缺員ヲ補任ス

統計院ノ僚員ハ終身其職ニ任ス其俸給ハ法律之ヲ定ム

第六十三條第二節ハ統計院ノ僚員ニ准用スヘシ

第八篇 兵備

第七十七條

國民最要義務ノ一ハ王國ノ獨立邦土ノ防禦ヲ固保スルカタメニ戰闘スルニアリ

國王ハ緩急ニ應シ歐洲内外ニ於テ使役ス

第七十八條

國王ハ緩急ニ應シ歐洲内外ニ於テ使役ス

ルタメ自ラ好シテ兵籍ニ入リタル内外國人ヨリ編立スル陸海軍ノ充備ヲ看守ス

第七十九條

國王ト國會ト諧合スルニ非レハ外國兵ヲ

王國ノ軍隊ニ備役スルヲ得ス

第八十條

成ルヘク丈ク自ラ好シテ兵籍ニ入ル者ヲ以

テ民兵ヲ編制シ法律ニ定メタル方法ニ準シテ之ヲ使役ス

ミリスナシガナル

第八十一條

自ラ好シテ兵籍ニ編入スル者ノ員數不足

スルキハ抽籤ノ法ヲ用ヒテ民兵ノ缺ヲ補フ凡ソ每歲第

一月一日ニ至リ齡ヒ二十歳ニ滿ル國民ハ抽籤ス但シ民

兵ニ編入スヘキ壯丁ノ登簿ハ之ヲ前年ニ行フ

第百八十二條 陸軍ニ祇役スル民兵ハ平和ノ時ニ於テハ服役五年ノ後ニ必ス之ヲ解罷ス

戰時若シハ非常ノ時ハ毎歲改制スヘキ法律ヲ以テ民兵ノ役期ヲ延フルヲ得ヘシ

第百八十三條 平時ニ於テハ毎歲一回陸軍民兵ヲ徵集シテ練練ニ加ハラシム但シ其練練ノ時日ハ六週日間ニ過シルヲ得ス然レモ國王ハ緊要ト思量スルキ練練ノ時間ヲ短縮シ又ハ廢止スルヲ得

國王ハ法律ニ由リ定メタル民兵ノ局部ヲ留メテ兵役ニ

服セシムルヲ得

本年ニ徵募スル兵士ハ初メテ練練スルカタメ止メテ役スルヲ一年以上ニ及フヲ得ス

第百八十四條 戰時若シハ其他非常ノ時ニ際シ國王ハ陸軍民兵ノ全部又ハ其局部ヲ徵集スルヲ得

國王ハ同時ニ國會ヲ召集シ法律ヲ以テ其徵集セル民兵ノ散セサルヘキヲ命スルニ備フ

第百八十五條 陸軍ノ民兵ハ其承諾ナク歐洲外ノ王國藩屬地又ハ所屬地ニ送遣スルヲ得ス

第百八十六條 法律ニ因リ定メタル方法ニ準シ民兵ノ局

部ヲ海軍ニ使役スルヲ得

海軍ニ使役スル民兵ノ局部ハ法律ニ因リ許認スル益利ノ外更ニ又其役期ヲ短クス

前條ハ海軍ニ準用スヘカラス

第百八十七條 凡ソ國軍ニ係ル費用ハ國庫ニ於テ之ヲ支

ユ

兵士ノ屯營、保養、軍隊若クハ堡寨ニ係ル運送及ヒ諸種ノ課役ハ例ニ準シ費ヲ給スルノ外專ラ一人若クハ數人又ハ一邑若クハ數邑ニ其責任ヲ命スルヲ得ス
法律ハ戰時ノ場合ニ係ル特例ヲ規定ス

第百八十八條

護郷兵ハ邑ニ構制ス

ガルドシヒツ

護郷兵ハ危戰鬪ノ時ニ於テ國土ヲ防禦シ及ヒ戰時和時ヲ論セス國安ヲ保擁ス

第百八十九條 法律ハ國軍及ヒ護郷兵ノ員數ト構制トヲ規定ス

第九篇 水流橋堤ノ管理

第百九十條 國王ハ國庫ヨリシ又ハ其他ノ方法ニ因リ費

用ヲ支ユル水流及ヒ橋堤ノ諸務ヲ綜理ス

第百九十一條 法律ハ水流及ヒ橋堤ニ係ル一般及ヒ特別ノ管理ヲ定ム

第九十二條 州會ハ其州内ノ水流、橋、堤、水理務及ヒ水理
區ヲ監察シ國王ノ准允ニヨリ水理區ノ構制ト條例トヲ
改變シ及ヒ之ヲ新設スルヲ得但シ前二條ニ掲クル條
則ハ此限ニ在ラス

是故ニ水理區ノ長官ハ州會ニ其意見ヲ起議スルヲ得
第九十三條 州會ハ其州内ニ於テ荒蕪開墾、堤防、建築、沼
澤乾竭及ヒ泥炭坑、礦坑、採石坑ノ開掘ヲ監察ス然レモ國
王ハ官吏ヲ特設シテ此監察ノ任ヲ與フルヲ得

第十篇 教育ノ事及ヒ施濟諸舍

第九十四條 教育ハ政府ニ於テ常ニ監護スル所トス

教育ノ構制ハ法律之ヲ定メ法教ノ主意ヲ侵毀セス政府
ハ闔國ニ於テ小學教授ノ方法ヲ備頓ス

教育ハ政府ノ監察ヲ除クノ外自由トス及ヒ中學ト小學
ニ係リテハ法律ニ定メタル條則ニ準シ教師ノ才能品行
ヲ檢證スルヲ除クノ外亦自由トス

國王ハ每歲大中小學校ノ景況ヲ詳精ニスル報告書ヲ國
會ニ通照セシム

第九十五條 施濟務ノ管理ハ常ニ政府ノ監護スル所ト
ス但シ法律ニ因テ之ヲ規定ス

國王ハ每歲施濟ノ景況ヲ詳細ニスル報告書ヲ國會ニ通

第九十二條 州會ハ其州内ノ水流、橋、堤、水理務及ヒ水理
區ヲ監察シ國王ノ准允ニヨリ水理區ノ構制ト條例トヲ
改變シ及ヒ之ヲ新設スルヲ得但シ前二條ニ掲クル條
則ハ此限ニ在ラス

是故ニ水理區ノ長官ハ州會ニ其意見ヲ起議スルヲ得
第九十三條 州會ハ其州内ニ於テ荒蕪開墾、堤防、建築、沼
澤乾竭及ヒ泥炭坑、礦坑、採石坑ノ開掘ヲ監察ス然レモ國
王ハ官吏ヲ特設シテ此監察ノ任ヲ與フルヲ得

第十篇 教育ノ事及ヒ施濟諸舍

第九十四條 教育ハ政府ニ於テ常ニ監護スル所トス

教育ノ構制ハ法律之ヲ定メ法教ノ主意ヲ侵毀セス政府
ハ闔國ニ於テ小學教授ノ方法ヲ備頓ス

教育ハ政府ノ監察ヲ除クノ外自由トス及ヒ中學ト小學
ニ係リテハ法律ニ定メタル條則ニ準シ教師ノ才能品行
ヲ檢證スルヲ除クノ外亦自由トス

國王ハ每歲大中小學校ノ景況ヲ詳精ニスル報告書ヲ國
會ニ通照セシム

第九十五條 施濟務ノ管理ハ常ニ政府ノ監護スル所ト
ス但シ法律ニ因テ之ヲ規定ス

國王ハ每歲施濟ノ景況ヲ詳細ニスル報告書ヲ國會ニ通

照ス

第十一篇 建國法ノ修正

第九十六條 凡ソ建國法修正ノ議接ハ其起議スル修正ノ箇條ヲ明書ス法律ハ其論決スル所ニ隨ヒ該議案ヲ討議スヘキヲ宣告ス次條ニ揭示セルカ如ク建國法ヲ修正スル時ハ現在ノ國會ハ散スヘキニ依リ其前ニ此法律ヲ出スナリ

第九十七條 此法律ヲ公布スルノ後國會ノ兩院ハ解散ス

新タニ選舉シタル兩院ハ此議接ヲ討議ス然レモ少クモ投票三分ノ二ヲ集ムルニ非レハ該法律ニ因リ起議シタ

ル建國法ノ修正ヲ許認スルヲ得ス

第九十八條 攝政官政ヲ握ル時ニ際シテハ苟モ建國法若クハ繼嗣序次ノ改變ヲ議スルヲ得ス

第九十九條 國王及ヒ國會ノ諧合決定シタル建國法ノ修正ハ端式ニ循ヒ公布シテ建國法ニ附添ス

附錄條款

第一條 凡ソ現今設立スル官廳ハ此建國法ニ準シ之ニ代置スル官廳ヲ新設スルノ日ニ至ルマテ皆其權任ヲ保有ス

第二條 法律ハ建國法查正ノ故ヲ以テ終身官ノ職ヲ失ヒ

タル者ニ給與スヘキ償金ヲ定ム

第三條 凡ソ建國法修正ヲ公布セシ時ニ於テ執行ノ力ヲ有スル法律條例及ヒ布令ハ法ニ循ヒ之ヲ廢止スルノ日ニ至ルマテ現地ニ施行ス

第四條 應撰人ノ推薦若クハ官吏叙任ニ關シ藩主權藩主權 世襲ノ特ヲ廢止ス其他ノ藩主權ヲ廢止シ及ヒ其權ヲ廢スルニ因リテ給與スヘキ償金ハ法律ニ由リ命令規定スルヲ得

第五條 左ノ二項ニ關スル法按ハ建國法修正ヲ公布スル後國會ノ第一會期ニ下附ス

第一 選舉法及ヒ上下院ノ代議士撰任ニ關スル法律

第二 州法及ヒ邑法

執政官ノ任責、司法官ノ新設、教育、施濟ノ管理及ヒ集會結社ノ權ヲ受用スル法案ハ成ルヘクハ前文ニ掲クル會期ニ下附スヘシ但シ遲クモ其次ノ會期ニ下附スヘシ

歐洲外ニ於ル王國藩屬地及ヒ所屬地ノ管理ヲ定ムル法律ハ建國法修正ヲ公布スルヨリ三年內ニ起議スヘシ

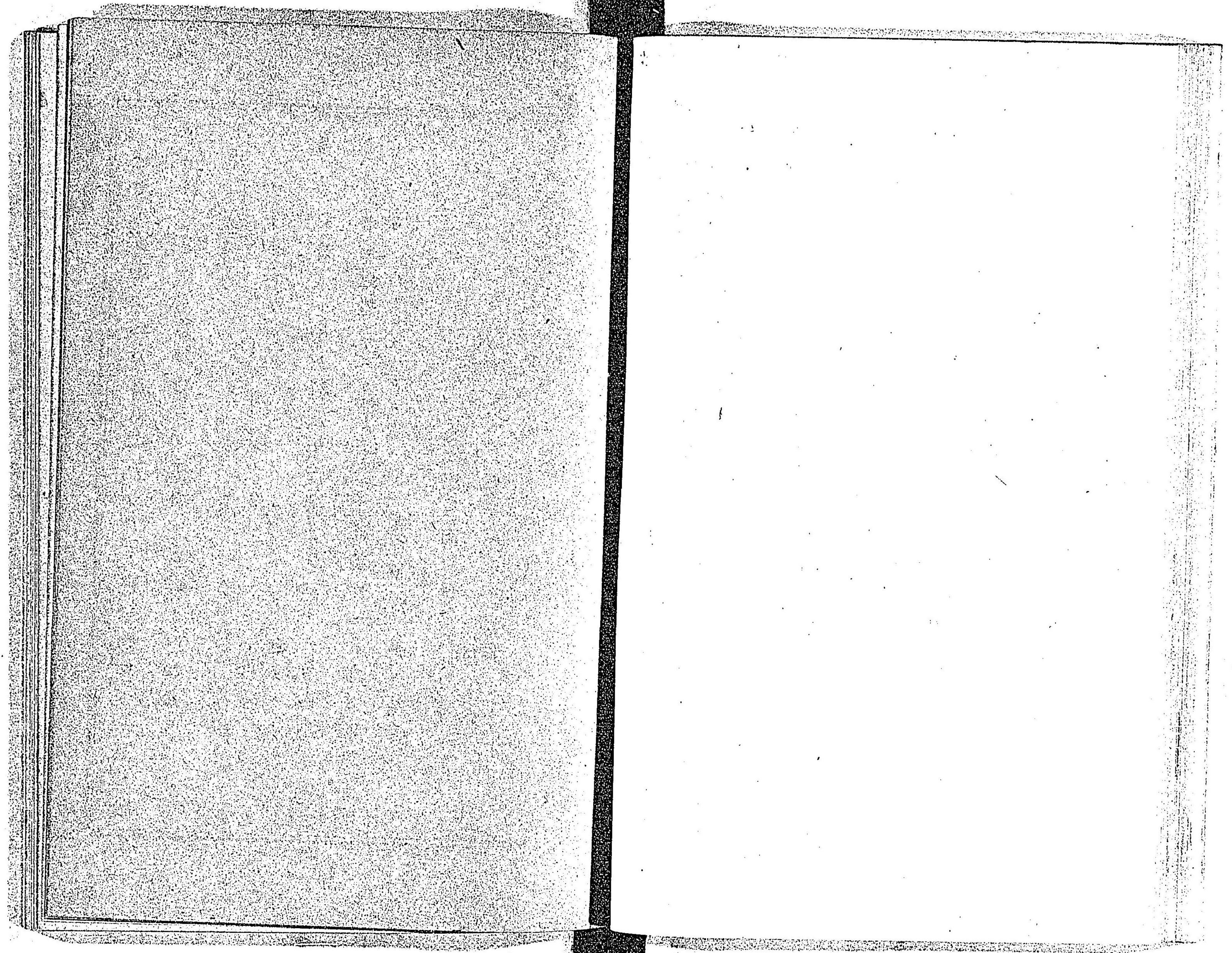
第六條 國會ノ上院議員三分一ノ第一回更撰ハ千八百五十一年九月第三月曜日ニ於テシ下院議員半數ノ第一回更撰ハ千八百五十年九月第三月曜日ニ於テスヘシ

議員更撰ハ第五條第一項ニ掲クル法律ニ因リ定メタル
順次ニ準シテ之ヲ施行スヘシ

荷蘭國憲畢

謬誤追正

- 一 第八行 上ノ〔州〕ハ〔洲〕ノ誤
- 六 第九行 〔今王〕ノ下〔ノ〕ヲ脱ス
- 十二 第一行註 〔今ハ〕ハ〔今王〕ノ誤
- 十三 第三行 〔オラジユ〕ハ〔オランジユ〕ノ誤
- 二十二 第九行 〔序〕ハ〔席〕ノ誤
- 三十一 第一行 〔決議ノ權〕以下別行
- 八十三 第一行 〔政府ハ〕以下別行



丁 抹 國 憲

米 國

グヘルベツキ氏 口 譯

齋 藤 利 敬 筆 記

細 川 潤 次 郎 校 正

丁 抹 ノ 國 憲 ハ 一 千 八 百 六 十 五 年 十 一 月 七 日 兩 院 ニ 於
ロフチンダマンタル
テ 決 定 シ 一 千 八 百 六 十 六 年 七 月 二 十 八 日 國 王 ノ 許 可
ヲ 得 タ ル 者 ナ リ

第 一

第 一 條 國 ハ 立 憲 政 體 タ リ 王 位 ハ 世 襲 ト シ 嗣 位 ノ 順 序 ハ
一 千 八 百 五 十 三 年 七 月 三 十 一 日 ニ 制 定 シ タ ル 法 律 ノ 第

一 條 及 ヒ 第 二 條 ニ 據 ル

第 二 條 立 法 權 ハ 國 王 及 ヒ 兩 院 共 同 シ テ 之 ナ 行 ヒ 行 政 權

ハ 國 王 ノ ミ ニ 在 リ ト ス 司 法 權 ハ 各 裁 判 所 ニ 於 テ 之 ナ 行

フ

第 三 條 「エ グ リ ー ズ、エ ヴ ア ン セ リ ー ク、リ ユ テ リ ユ ス」波 羅 特 士

一 旦 派 ノ 教 ナ 以 テ 國 教 ト シ 政 府 之 ナ 保 守 ス

第 二

第 四 條 國 王 ハ 兩 院 ノ 承 認 ナ ク シ テ 外 國 ノ 君 主 ナ 兼 ヌ ル

ヲ ナ 得 ス

第 五 條 國 王 ハ 必 ス 「エ グ リ ー ズ、エ ヴ ア ン セ リ ー ク、リ ユ テ

リ ユ ス」 教 ナ 奉 ス 可 キ 者 ト ス

第 六 條 國 王 ハ 滿 十 八 歲 ナ 以 テ 丁 年 ト ス 王 族 亦 同 シ

第 七 條 國 王 ハ 即 位 ノ 前 ニ 參 議 官 ノ 面 前 ニ 於 テ 國 憲 ナ 確

守 ス ヘ キ 誓 書 二 葉 ナ 記 シ 兩 院 及 ヒ 國 ノ 記 錄 局 ニ 付 ス 兩

院 及 國 ノ 記 錄 局 ハ 並 ニ 之 ナ 保 藏 ス 若 シ 國 王 ノ 代 ル 時 不

在 ナ 巡 幸 中 等 或 ハ 他 ノ 事 故 ニ 由 リ 誓 書 ナ 記 ス 可 能 ハ サ ル

時 機 ニ 於 テ 格 別 ナ ル 法 律 ア ラ サ レ ハ 參 議 官 政 ナ 行 ヒ 國

王 ハ 誓 書 ナ 記 シ タ ル 後 直 ニ 政 ナ 親 ラ ス 可 シ

第 八 條 國 王 ノ 未 丁 年 及 ヒ 疾 病 又 ハ 不 在 ノ 場 合 ニ 於 テ 政

ナ 行 フ ニ 付 テ ノ 方 式 ハ 一 ノ 法 律 ニ 由 テ 之 ナ 定 ム 其 法 律

ヲ制定スル迄ノ間ハ參議官假リニ政ヲ行ヒ急速兩院ヲ
徵集ス兩院會合シテ第六十七條國王政ヲ親ラスル迄ノ
間政ヲ行フニ付テノ方式ヲ決定ス若シ王位ヲ嗣ク可キ
者ナキ時ハ兩院リンスダニ於テ一人ノ國王ヲ冊立シ嗣位ノ順序
ヲ定ムルノ權ヲ有ス

第九條 國王在位間ノ歳俸及ヒ國王ニ屬スル宮室土地等
ハ一ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム其歳俸ニ付テハ負債アル可
ラス

第十條 王族ノ歳俸ハ法律ニ由テ之ヲ定ム然レモ兩院リンスダノ
承認ヲ得ルニ非サレハ外國ニ在テ其歳俸ヲ受ケ及ヒ之

ヲ費用スルヲ得ス

第三

第十一條 國王ハ國憲ニ掲載シタル權内ニ由テ最上ナル
威權ヲ有ス其威權ハ宰相ニ由テ之ヲ行フ

第十二條 國王ハ責ニ任セサル者トス○國王ノ身體ハ神
聖ニシテ侵ス可ラサル者タリ宰相ハ責ニ任ス可キ者ト
ス○宰相ノ責任ハ一ノ法律ニ依テ之ヲ定ム

第十三條 國王ハ宰相ヲ命シ及ヒ之ヲ免ス○國王ハ宰相
ノ員ヲ定メ及ヒ政務ヲ分任ス法律及ヒ行政ニ付テノ決
定書ハ國王及ヒ宰相ノ花押ヲ署スルニ非サレハ其力ヲ

有セズ宰相ハ花押ヲ署シタル決定書ニ付キ其責ニ任ス
 第十四條 國王及ヒ兩院リクスダグハ宰相ノ公罪ヲ告訴スルノ權アリ
 宰相ノ公罪ハ「リクスダグ」第二十六條及ヒ第六ニ於テ審判ス

第十五條 參議官ハ宰相ノ集會ヲ以テ成ル太子ハ丁年ニ至レハ參議官ニ列スルノ權ヲ有シ國王ハ第七條及ヒ第八條ニ掲載スル時機ノ外參議官ノ上席ヲナスノ權ヲ有ス

第十六條 法律及ヒ政府ノ要務ハ參議官ニ於テ議決ノ權ヲ有ス國王參議官ノ上席ヲナスコト能ハサルノ狀アル時

ハ宰相ノ評議會ニ委任シテ商議セシムルコト得此ノ評議會ハ宰相ヲ以テ編成シ而シテ國王ノ委任ヲ受タル宰相ハ評議會ノ上席ヲナス○各宰相ハ其投言ヲ筆記シ過半數ニ依テ可否ノ決定ヲナス○上席人ハ宰相ノ花押ヲ手署シタル筆記ヲ國王ニ奏進ス國王ハ直ニ之ヲ可トスルカ或ハ參議官ニ於テ更ニ議決ス可キカヲ定ム可シ
 第十七條 國王ハ諸ノ官吏ヲ任命ス然レモ一ノ法律ニ於テハ之ヲ制限ヲ立ツルコト得可シ國民ノ權利ヲ有スル者ニ非レハ官ニ任スルコト得ス○文官武官トナク國憲ヲ確守ス可キ誓詞ヲ宣フ○國王ハ任命シタル官吏ヲ免

黜スルヲ得官吏ノ退老料ハ其法律ニ由テ之ヲ定ム○
國王ハ官吏ノ諾否ヲ問ハスシテ轉任ヲ命スルヲ得然
レモ轉任ニ因テ其俸給ヲ減スルヲ得ス右ノ官吏ハ其
轉任ヲ承諾スルト通例ノ規則ニ從ヒ退老料ヲ得テ辭職
スルトノ間ニ於テ自ラ之ヲ擇フノ權アリ

第七十三條ニ掲載スル場合ノ外諸ノ官吏ニ付テ種々格
別ナル事件ハ一ノ法律ニ因テ之ヲ定ム

第十八條 國王ハ戰ヲ宣ヘ和ヲ決シ及同盟貿易ノ條約ヲ
結フ然レモ兩院ノ承諾ヲ得ルニ非レハ土地ノ一部分ヲ
割キ及現行ノ「リンスダク」行政刑法治罪ノ條規ヲ

更改スル約ヲ定ムルヲ得ス

第十九條 國王ハ定規ニ依テ每歲兩院ヲ徵集ス兩院ハ國
王ノ許可ヲ得スシテ二ヶ月以上集會スルヲ得ス○然
レモ右ノ集會ハ一ノ法律ニ由テ變化ス

第二十條 國王ハ預メ時限ヲ定メテ特ニ兩院ヲ徵集スル
權ヲ有ス

第二十一條 國王ハ兩院ノ集會ヲ延ハシ而シテ後ノ集會
日ヲ預定スルノ權アリ然レモ兩院ノ承認ナクシテ二ケ
月以上集會ヲ延ハシ或ハ兩度ノ集會ニ於テ延會一度ヲ
過シルヲ得ス

第二十二條 國王ハ兩院或ハ一院ヲ解散スルノ權ヲ有ス
リクシタク 國王兩院ノ一院ヲ解散スル時ハ更ニ兩院ヲ徵集スル迄
リクシタク ノ間他ノ一院ノ集會モ亦之ヲ延ハスヲ要ス兩院ノ一院
 ヲ解散スルキハ必ス二ヶ月ノ間ニ更ニ又々兩院ヲ徵集
 ス可シ

第二十三條 國王ハ兩院リクシタクヲシテ法律及種々ノ艸案ヲ奏進
 セシムルヲ得可シ

第二十四條 兩院ノ決定ニ法律ノ効力ヲ有スル爲ニ國王
 ノ批可ヲ得ルヲ必要トス國王ハ法律ヲ布告シ又ハ法律
 ノ履行ヲ監督スルノ權ヲ有ス○兩院リクシタクニ於テ制シタル法

律ノ艸案ハ次ノ集會ニ至ル迄國王ノ批可ヲ得サレハ其
 効ヲ有セズ

第二十五條 國王ハ緊急ナル時機ニ於テハ兩院リクシタクノ集會迄
 ノ間假則ヲ設ケテ布告スルヲ得然レモ此ノ假則ハ國
 憲ニ違戾スルヲ得ス此ノ假則ハ兩院リクシタクノ次會ニ必ス之
 ヲ出ス可シ

第二十六條 國王ハ罪犯ヲ赦宥シ及大赦ヲ行フノ權ヲ有
 ス○「リクステンツト」大審院アルトスチノ上ニ位スル最上裁判所ニ
 於テ裁判ヲ宣告シタル宰相ノ犯罪ハ下院ノ承認ヲ得ル
 ニ非サレハ赦宥スルヲ得ス

第二十七條 國王ハ直接ニ或ハ管廳ニ由テ法律ヲ寬クシ及特免ヲ與フルノ權アリ然レモ右ノ定メハ一千八百四十九年六月五日以前ニ行ハレタル規則及ヒ一千八百四十九年六月五日以後設ケタル規則ニ循フ

第二十八條 國王ハ法律ニ由テ貨幣ヲ鑄造スルノ權ヲ有ス

第四

第二十九條 兩院リシスダハ下院フタルクサン及ヒ上院ランゼンヨリ成ル

第三十條 品行端正ニシテ瑕瑾ナク及ヒ國民ノ權利ヲ享ケ滿三十歳ニ至ル者ハ下院議員ノ選舉權ヲ有ス然レモ

左ニ記載スル者ハ之ヲ除ク

- 一 住居ナクシテ人ノ奴僕タル者
- 一 救助金ヲ受ケ及ヒ救助金ノ償却ヲ免レス或ハ自ラ償却セサル者
- 一 隨意ニ己ノ財産ヲ使用スルヲ能ハサル者
- 一 撰舉ヲ行フ時一年間本郡及ヒ其市街ニ住居セサル者

第三十一條 前條ニ掲載スル所ノ第四項ヲ除クノ外品行端正ニシテ瑕瑾ナク及ヒ國民ノ權利ヲ享ケ滿二十五歳ノ者ハ下院ニ撰舉セラル、コヲ得

第三十二條 下院議員ノ數ハ民口一萬六千ニ一員ノ比例トス撰舉ハ法律ニ依テ定メタル所ノ各郡ニ於テ之ヲ行ヒ而シテ各郡ハ撰舉ニ應セシヲ求ムル者ノ内一員ヲ撰舉ス

第三十三條 下院ノ議員ハ三年間ノ任期ヲ以テ撰舉ス○下院ノ議員ハ法律ニ由テ日給ヲ受ク

第三十四條 上院議員ノ數ハ六十六名トス内十二名ハ國王ヨリ撰任シ七名ハ「コベヌハーグ」都府ヨリ四十五名ハ市街ヲ包ム所ノ州ヨリ一名ハ「ホルヌホルム」島ヨリ一名ハ「フアロエ」島ヨリ撰舉ス

第三十五條 下院議員ノ撰舉權ニ付キ緊要ナル規定ニ適ハサル者ハ直接及ヒ間接ニ論ナク又上院議員ノ撰舉ニ與ガルコトヲ得ス然レモ住居ノ年限ハ撰舉ヲ行フ前年ヨリシテ本州ニ屬スル市街及ヒ郡ニ住居スル者ハ撰舉ノ權ヲ有ス

第三十六條 「コベヌハーグ」ニ於テハ第三十五條 参看ス可シ民口百二十ノ爲ニ一ノ上級撰舉人ヲ撰フコトヲ要ス民口六十以上ハ百二十ト同ク視ル又前年ニ於テ租税ニ關スルニ二千「リクスダレル」貨幣ノ名一「リクスダレル」ノ入額アル者ハ亦上級撰舉人ヲ撰フノ權アリ而シテ上級撰舉人相共同シ

テ「コベヌハーグ」ヨリ上院ニ出ス可キ議員ヲ撰擧ス
 第三十七條 各邑ニ於テハ初級撰擧人第三十五條参照ス可シ共同シ
 テ一邑毎ニ一ノ上級撰擧人ヲ撰ヒ市街ニ於テハ「フレテ
 リツクスボルグ」「フレテリツクスヴァアルク」「マールスタル」
 「シリケボルグ」「ヨグストール」「ノルレンスト」以上市街ノ名共
 同シテ邑ヨリ撰フ所ノ半數ノ上級撰擧人ヲ撰フヲ要ス
 然レモ右ノ人員ノ奇數ニ在ル時ハ一人ヲ擧テ之ヲ補足
 ス市街ヨリ撰フ所ノ上級撰擧人ノ内半數ハ初級撰擧人
 ヨリ之ヲ撰ヒ半數ハ初級撰擧人ノ内前年ニ於テ租稅ニ
 關スル一千「リクスダレン」以上ノ入額アル者或ハ合計七

十五「リクスダレン」ノ國稅及ヒ邑稅ヲ納ムル者ヨリ之ヲ
 撰フ可シ市街ニ住居スル初級撰擧人ノ人員ニ應シ上級
 撰擧人ノ總員ヲ各市街ニ分賦スル「ハ上院」ノ撰擧ヲ行
 フ毎ニ政府ニ於テ之ヲ定ム然レモ各市街ハ必ス二箇ノ
 等級通常及ヒ富有ナル一名宛ヲ撰擧ス可キ法式ヲ以
 テ分賦スルヲ要ス上級撰擧人ノ二箇ノ種類市街及ヒ邑
 撰擧人云フニ由テ各州ニ於テ邑ヨリ撰擧シタル人員ト概テ
 同數ナル前年ニ於テ最モ多キ國稅及邑稅ヲ納メタル初
 級撰擧人ヲ右ノ種類ニ加入シ而シテ是等皆ナ本州ヨリ
 上院ニ出ス可キ議員ヲ撰擧ス

第三十八條 撰擧ヲ行フ前年ヨリ本州ニ住居シ下院ノ議員ニ撰擧セラル可キ者ハ又上院ノ議院ニ撰擧セラル、
トナ得

第三十九條 國王ノ撰任ス可キ上院ノ議員ハ畢生間在職トス該議員ハ曾テ兩院ノ一院ニ撰レタル者ヲ以テ之ニ任ス然レモ該議員ハ職務ヲ辭スルヲ得可シ若シ被撰ノ權利ヲ失フ時ハ議員タルヲ得ス○上院ノ他ノ議員ハ四ヶ年毎ニ半數更撰ノ方式ヲ以テ八年間在職トス○上院ノ議員ハ下院ノ議員ト同一ナル日給ヲ受ク

第四十條 上院議員ノ撰擧ハ各地方比例方ニ由テ之ヲ行

フ撰擧ニ付テノ種々ノ規程ハ法律ニ由テ之ヲ定ム

第五

第四十一條 國王ヨリ特ニ兩院ヲ徵集スルニ非サレハ兩院ハ十月ノ第二月曜日ニ於テ集會ス

第四十二條 兩院ハ政府所在ノ地ニ於テ集會ス然レモ格別ナル時機ニ於テハ國王其他ノ所ニ於テ徵集スルヲ得可シ

第四十三條 兩院ハ侵ス可ラサル者トス兩院ノ安全及ヒ其自由ヲ害シ及ヒ其教令ヲ爲シ又ハ其教令ニ從フ者ハ逆罪ナリ

第四十四條 各議院ハ新ニ法律ヲ起草シ及ヒ其議院ニ關スル事件ヲ決定スルノ權ヲ有ス

第四十五條 各議院ハ國王ニ向テ建言スルノ權アリ

第四十六條 各議院ハ公益ニ關スル事件ヲ調査セシムル爲ニ議員ノ中ヨリ委員ヲ設クルヲ得此ノ委員ハ調査ノ爲ニ必要ナル報告書等ヲ差出ス可キヲ口述或ハ書面ヲ以テ官吏及ヒ人民ニ求ムルノ權アリ

第四十七條 一ノ法律ノ力ニ由ルニ非スシテ賦稅ヲ定メ或ハ變更シ及ヒ之ヲ免除スルヲ得ス又一ノ法律ノ効ニ由ルニ非レハ兵士ヲ募リ及ヒ國債ニ付テノ約束ヲ定

メ或ハ政府ニ屬スル土地ヲ讓ルヲ得ス

第四十八條

リスダク

兩院ノ通常ノ集會ニ於テハ其集會ノ整頓ス

ルヤ否國ノ入額及ヒ出額ニ付テノ計算書ト翌年ノ國計豫算表トヲ製シテ之ヲ出ス可シ

國計豫算表及ヒ政府ノ格別ナル費額ハ始メ必ス下院ニ於テ決定スル

クレヂット
マニテール

第四十九條 豫算表ノ決定ニ由ルニ非サレハ租稅ヲ賦ス可ラス豫算表及ヒ格別ナル費額ノ決定書ニ由ルニアラズシテ國財ヲ使用スルヲ得ス

第五十條 各議院ハ國計ニ關シタル統計書ヲ調査シ又國

ノ入額及ヒ出額ハ其統計書ニ記載シ豫算表ノ外費額ノ有ルヤ否ヲ検査スル爲ニ俸給アル兩名ノ検査官ヲ命ス可シ此ノ検査官ハ種々ノ報告書及ヒ必要ト思考スル證書類ヲ差出サシムルノ權アリ○政府ノ一年間ノ統計書ハ検査官ノ取調書ヲ副^リ兩院ノ決定ニ付ス○右ノ種々ノ規定ハ一ノ法律ニ由テ變更スルヲ得可シ

第五十一條 一ノ法律ノ効ニ由ルニ非サレハ外國人ヨリ國民タルノ權利ヲ求ムルヲ得ス

第五十二條 上院下院ニ論ナク三回ノ會議ヲ經ルニ非サレハ法律ノ議案ヲ決定スルヲ得ス

第五十三條 一ノ議院ニ於テ決定シタル法律ノ議案ヲ其儘ニ之ヲ他議院ニ送付シ變更シタル時ハ之ヲ原ノ議院ニ送還ス可シ原ノ議院ニ於テ又之ヲ變更シタル時ハ更ニ又タ他ノ議院ニ送還ス可シ而シテ遂ニ兩院ノ議決ヲ得ルヲ能ハサル時ハ兩院ノ一院ノ求ニ因リ各議院ニ於テ同數ノ委員ヲ命ス可シ此委員ハ會議中ノ事件ニ付キ一ノ陳述書ヲ作り意見ヲ兩院ニ進呈ス兩院ハ其意見ニ由リ各自ニ之ヲ決定ヲナス可シ

第五十四條 各議院ハ該議員ノ撰舉ノ正確ナルヤ否ヲ密糾スルノ權ヲ有ス

第五十五條 新選議員ハ撰擧ノ正確ヲ認可セラル、ヤ否直ニ國憲ヲ循守ス可キ誓詞ヲ宣フ

第五十六條 リクスタク 兩院ノ議員ハ撰擧人ノ敎令ニ從ハスシテ自己ノ意見ヲ述ルヲ要ス○リクスタク 兩院ノ議員及ヒ撰擧セラレタル官員等ハ撰擧人ノ委任ヲ受クル爲ニ政府ノ認准ヲ得ルニ及ハス

第五十七條 リクスタク 兩院一集會中議院ノ承認ヲ得スシテ要償ノ爲ニ議員ヲ禁獄スルコトヲ得ス又現行罪犯ヲ除クノ外之ヲ禁獄シ及ヒ裁判所ニ提喚スルコトヲ得ス○兩院ノ議員ハ議院ノ外ニ在ラス又ハ議院ノ許可ナクシテ院中ニ於

テ發言シタル意見ノ爲ニ之ヲ審糾スルコトヲ得ス

第五十八條 法律ニ由テ撰擧ニ當リタル議員其撰擧ノ取消トナリタル場合ニ於テハ該議員ハ撰擧ヨリ生スル一切ノ權利ヲ失フ

俸給アル官職ヲ命セラレタルリクスタク 兩院議員ノ更ニ撰擧ニ當ル可キ場合ハ一ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 宰相ハ其職務ニ付キリクスタク 兩院ニ出席ナシ及ヒ議院ノ會議間ニ於テ辨論スルノ權ヲ有ス然レモ宰相ハ其辨論ノ間議院ノ例則ニ循フヲ要ス然レモ宰相ハ兼テリクスタク 兩院ノ一院ノ議員タルニ非サレハ可否ヲ公評スルノ權

ヲ有セズ

第六十條 各議院ハ議長ヲ撰擧シ及ヒ議長ノ闕席シタル
時代理者一名或ハ數名ヲ撰擧スルノ權アリ

第六十一條 各議院ニ於テ議員ノ半闕席シ及ヒ可否ノ公
評ニ與カラサル時ハ兩院ノ一院ハ決定ヲナスコトヲ得ス

第六十二條 兩院ノ議員ハ本院ノ承認ヲ得テ公事ヲ會議
ニ委託シ及ヒ其旨趣ニ付キ宰相ノ辨明ヲ求ムルコトヲ得

第六十三條 議員ニ由ルニ非スシテ卿案ヲ兩院ノ一院ニ
托スルコトヲ得ス

第六十四條 兩院ノ一院ニ於テ或ル決定ニ付キ意見ヲ發

言スルコトヲ不都合ト思考スル時ハ其儘之ヲ宰相ニ送還
スルコトヲ得可シ

第六十五條 兩院ノ集會ハ公行トス然レモ議長及ヒ規則
ニ定メタル所ノ議員ハ議員ニ非サル者ヲ院中ヨリ退去

セシメントコトヲ請求スルノ權アリ而シテ議院ニ於テ其集
會ヲ公行ス可キカ將タ秘密ニス可キカヲ決定ス

第六十六條 各議院ニ於テハ事務ノ順序及ヒ取締ニ付テ
ノ規則ヲ設クルヲ要ス

第六十七條 「リグスマグレユニ」聯合國ハ下院及ヒ上院ノ
集會ヲ以テ成ル議員ノ半數闕席ヲナシ或ハ公評ニ與カ

ラサル時ハ「リグスダグレン」ニ於テ規程ヲ設クルノ權
ヲ有ス

第六

第六十八條 「リグスロット」第二十六條ハ最上等裁判所ノ
參看ス可シ 裁判官及ヒ上院ノ議員ノ同數ナル人員ヨリ成ル「リグス
ロット」ニ出席ス可キ上院ノ議員ハ該院ヨリ撰ハレ四年
間其職務ヲ行フ最上等裁判所一切ノ裁判官某事件ニ關
シタル評議及ヒ其審判ニ與カル可キ時機ニ於テハ上院
ヨリ「リグスロット」ニ出席ヲナス可キノ議員ハ其出席ヲ
免ス其出席ヲ免ス可キ議員ハ最後ニ撰與セラレ或ハ寡

數ノ投票ニ由テ撰舉セラレタル者ヲ以テス「リグスロッ
ト」ハ該官員中ヨリ其上席人ヲ撰任スルノ權ヲ有ス
「リグスロット」ニ於テ某事件ヲ審判スルニ當リ若シ上院
ノ解散スル時ハ該院ヨリ撰舉セラレル裁判官ハ右事件
ノ結局ニ至ル迄其職務ヲ奉ス
第六十九條 「リグスロット」ハ國王及ヒ下院ヨリ宰相ヲ告
訴シタル時審判スルノ權アリ第十四條參照ス可シ 國王ハ國ノ安
寧ヲ害スル罪犯ト思考スルニ於テハ下院ノ承認ヲ得テ
宰相ニ非サル者ヲ提喚スルヲ得
第七十條 司法權ヲ行フハ一ノ法律ニ由テ之ヲ定ム

第七十一條 一ノ法律ニ定メタル規則ニ由リ司法ノ事ハ行政ト分別ス

第七十二條 諸裁判所ハ官吏等ノ權限ヨリ生スル爭訟ヲ審判スルノ權ヲ有ス然レモ右ノ訴ヲ裁判所ニ爲シタル者ハ被告タル官吏ノ命令ニ從フ可キ義務ヲ解ル可カラス屬官ヨリ長官ヲ訴ヘタル時依然其命令ヲ奉ス可キヲ謂フ

第七十三條 裁判官ノ權ヲ行フハ法律ニノミ循フ裁判官ハ裁判宣告ノ効ニ由ルニ非サレハ免黜スルヲ得ズ且諸裁判所ノ構制ヲ變改スル時機ノ外裁判官ノ請求ニ由ラズシテ轉任ヲ命スルヲ得ス然レモ滿六十五歲以上

ニ至ル時ハ免官スルヲ得ルト雖モ尙其俸給ヲ與フ
第七十四條 「プロセヂユルビユブリーク」ナルヘキダケ公行ノ及口上ノ

方式ヲ用ユル治罪ハ力所能急施シ且全國ノ司法ニ付キ之ヲ施ス可シ蓋此ヨリ前秘密トテ治罪ニ關シタル事犯及ヒ國事犯ニ付テハ陪審ヲ用ユ

第七

第七十五條 國教會ノ設立ハ一ノ法律ニ由テ其取締ヲナス

第七十六條 國民ノ宗教及ヒ舉動ハ道德及國ノ安寧ヲ害スルニ非レハ國民其信仰ニ由テ上帝ヲ拜スル爲ニ教會

ヲ結フノ權アリ

第七十七條 何人モ己ノ信仰スル宗教ノ爲ニ貨物ヲ寄附スルニ及ハス然レモ政府ノ認可ヲ得タル教會社中タルモノノ證左ヲ立ルコ能ハサル者ハ法律ニ於テ定メタル國教ノ爲ニ各人ノ寄附ス可キ金額ヲ文部省ニ納ム可シ

第七十八條 國教ニ非サル教會ハ一ノ格別ナル法律ニ由テ其取締ヲナス

第七十九條 教法ノ理由ノ爲ニ民權及ヒ政權ヲ褫ラフコトヲ得ス且其理由ノ爲ニ國民ノ行フ可キ各種ノ義務ヲ辭スルコトヲ得ス

第八

第八十條 總テ拿捕シタル者ハ二十四時間ニ裁判官ノ前ニ之ヲ出スヲ要ス拿捕シタル者ヲ直ニ放還スルコト能ハサル時ハ裁判官ハ其理由ヲ明記シタル宣告狀ヲ以テ該犯ヲ禁錮ニ處ス可シ右ノ宣告ハ力所能迅速ヲ要シ遅クモ三日間ニ之ヲ行フ拿捕セラレタル者ヲ保證ヲ立テ放還スルコトヲ得可キ場合ニ於テハ裁判官ハ其保證ノ種類及ヒ其制限ヲ定ム

○右ノ宣告ヲ受ケタル者ノ求ニ由リ裁判官ハ宣告シタル事件ヲ遲滞ナク控訴裁判所ニ訴フルコトヲ得可シ

○罰金及ヒ禁錮ノ刑ニ問フ可キ罪犯ハ勾

留スルヲ得ス

第八十一條 住居ハ侵ス可ラサル者タリ○住居ヲ檢探シ又ハ書簡文書ヲ勾收シ及ヒ其秘密ヲ侵スルハ法律ニ由テ定メタル格別ナル時機ノ外裁判宣告ノ効ノミヲ以テ之ヲ行フヲ得

第八十二條 所有物ハ侵ス可ラサル者トス公益ノ故ニ由ルコアラサレハ何人モ其所有物ヲ讓ルニ及ハス公益ノ爲ニ其所有物ヲ讓ル可キトハ一ノ法律ノ効力ニ由リ及ヒ十分ナル賠償ヲ以テノミ之ヲ行フヲ得

第八十三條 公益ノ故ニ由ラズシテ人民工業ノ自由ヲ妨

ク可キ一切ノ規定ハ一ノ法律ニ由テ之ヲ廢ス

第八十四條 自ラ生計ヲ立ルヲ能ハス或ハ其家屬ヲ養フヲ能ハス及ヒ他人ノ救助ヲ受ルヲ能ハサル者ハ政府ノ施濟ヲ仰クノ權アリ然レモ政府ノ施濟ヲ仰ク者ハ其法律ニ定タル規則ニ循フ

第八十五條 其子ヲ教育スルヲ能ハサル親ノ兒童ハ小學校ニ於テ無費ノ教育ヲ受ク可シ

第八十六條 各民裁判所ニ對シ責ニ任ス可キ出版ノ方式ヲ以テ自己ノ思想ヲ出版スルノ權ヲ有ス「サシユル」著
ノ監査及ヒ一切ノ制限ハ更ニ設クルヲ得ス

第八十七條 凡ソ國民ハ政府ノ前許ヲ得スシテ法律ニ觸
 レサル目的ヲ以テ會社ヲ結フノ權ヲ有ス何レノ會社ト
 雖モ行政ノ處分ニ由テ之ヲ解クヲ得ス然レモ假リニ
 會社ヲ禁止スルヲ得可シ此時機ニ於テハ法律ノ力ヲ
 以テ其禁ヲ解クカ爲ニ急速其事ヲ裁判所ニ告訴ス可シ
 第八十八條 凡國民ハ戎器ヲ携フルヲナク集會スルヲ得
 得警察官吏ハ其集會ニ蒞ムノ權アリ然レモ露場家屋外
 ノ集會ニ於テ國ノ安寧ヲ害ス可キ徵憑アル時ハ之ヲ禁
 止ス

第八十九條 暴動ノ起リタル場合ニ於テ兵士ハ其襲撃ヲ

受クルニ非レハ國王及ヒ法律ノ名義ヲ以テ三度散歸ヲ
 説諭シタル後始メテ兵力ヲ用ルヲ得

第九十條 兵器ヲ携フルニ適シタル國民ハ防護ノ爲メニ
 親ラ之ヲ援ク可シ然レモ此事件ハ法律ニ於テ特別ニ定
 メタル規則ニ循フ

第九十一條 政府ノ監督ヲ受クル所ノ諸邑ニ於テ自ラ其
 事務ヲ調理スルノ權ハ一ノ法律ニ由テ之ヲ定ム

第九十二條 舊法ニ掲載シタル貴人及ヒ尊稱又ハ位階ニ
 屬スル特權ハ之ヲ廢ス

第九十三條 不動産ニ付キ「フイーフ」籍土世「マシヨラ」財產嫡産

子ニノ法「傳」ヒ「イ」コ「ン」ミ「ツ」ス「」財產相續ノ順序ヲ新設ス
 ル「」ヲ得ス一ノ格別ナル法律ニ於テ現行スル所ノ右ノ
 財產ヲ自由トナス爲ニ循用ス可キ規則ヲ設ク可シ
 第九十四條 第八十條第八十七條第八十八條ニ掲載シタ
 ル各種ノ條規ハ軍律ヨリ生スル所ノ制限ヲ以テスルニ
 非レハ海陸軍ニ用ユル「」ヲ得ス

第九

第九十五條 此ノ國憲ニ付キ將來増加ス可キ種々ノ改正
 艸案ハ議院ノ通常及ヒ格別ノ集會ニ於テ之ヲ爲ス「」ヲ
 得可シ○此ノ國憲ノ新ナル條規ニ付テノ艸案ハ兩院ニ

於テ之カ決定ヲナシ而シテ政府之ニ効力ヲ與ヘント欲
 スル時ハ直ニ兩院ヲ解散シ更ニ下院及ヒ上院ノ爲ニ全
 國ヨリ議員ヲ撰擧ス右ノ撰擧セラレタル兩院ノ議員ハ
 通常及ヒ特別ナル集會ニ於テ其艸案ヲ更ニ決定シ國王
 ノ批可ヲ得ル時ハ其艸案ハ法律ノ力ヲ有ス

丁 抹國憲畢

謬誤追正

十七

第十行

〔上院〕誤テ右傍ニ入ル
ランツダシ

二十六

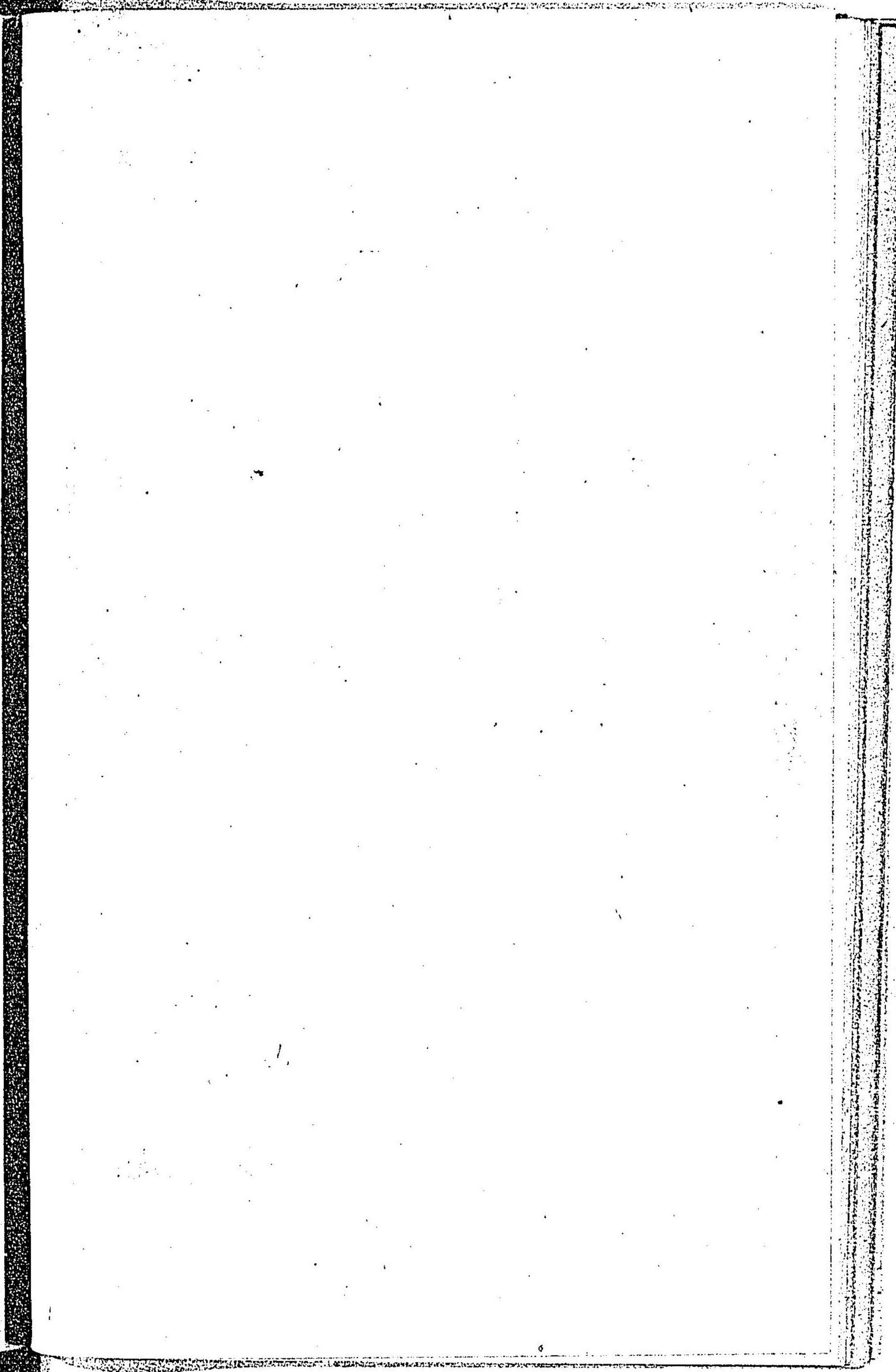
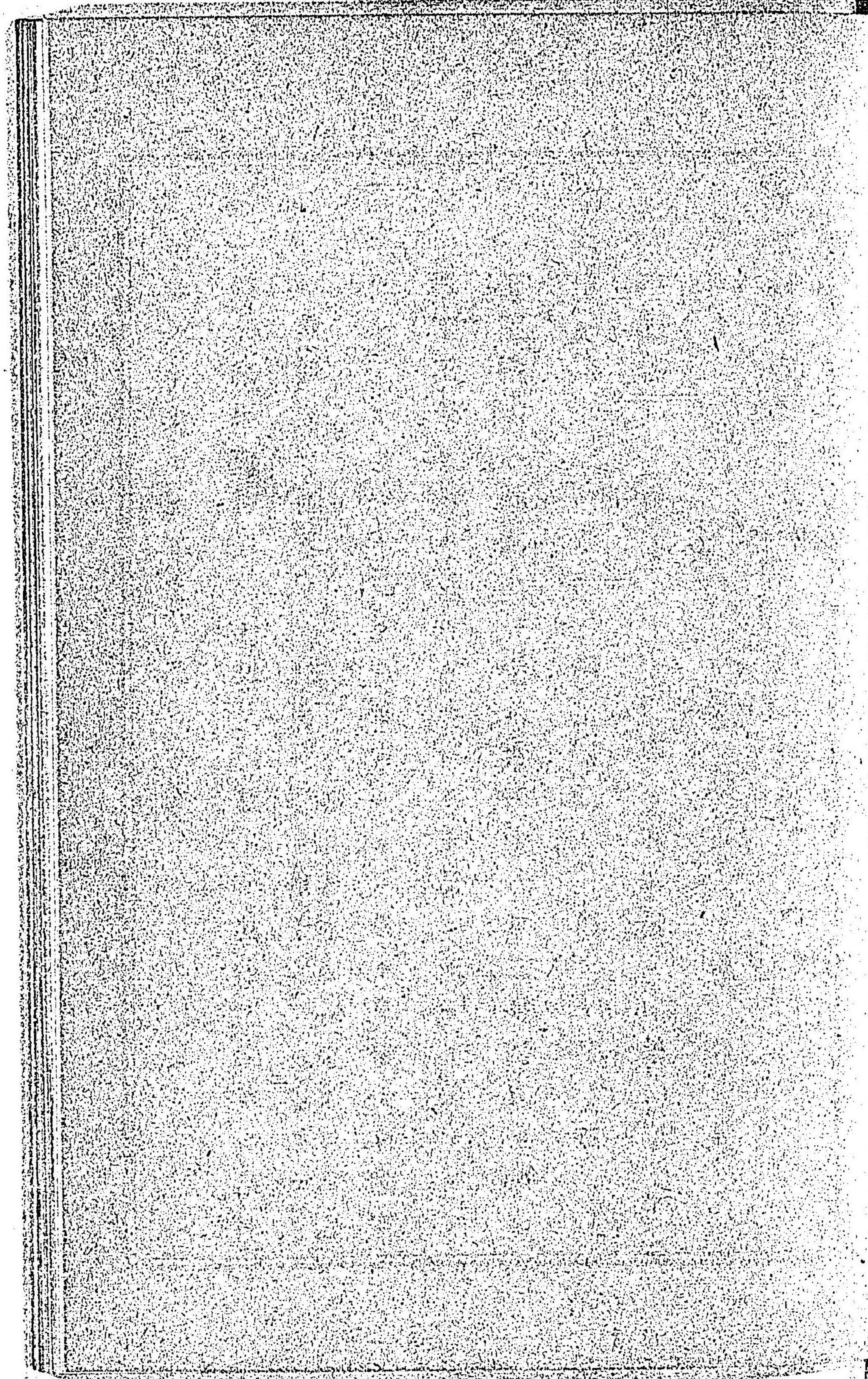
第二行

〔關〕ハ〔闕〕ノ誤

二十八

第十行

〔與〕ハ〔舉〕ノ誤



伊太利國憲

ヴヘルベツキ氏口譯

齋藤利敬筆記

細川潤次郎校正

王國撒丁ノ國憲ハ一千八百四十八年三月四日ニ於テ
 撒丁王兼「シベル」王「エルサレム」王及ヒ「サブアイ」侯タル「シ
 ヤル、アルベル」王ヨリ布告シタル者ナリ伊太利國憲
 ハ本撒丁ノ國憲ナリ撒丁ノ諸國ヲ併スニ隨テ漸ク之
 第一條 羅馬加特力教ヲ以テ國教トス其他ノ宗旨ハ法律
 ニ背クニ非サレハ之ヲ准ス

第二條 國ハ立憲政體ニ由テ統治ス王位ハ「サリ」女子位ヲ傳ヘノ法ヲ以テ男統世襲トス

第三條 立法權ハ國王元老院下院合同シテ之ヲ行フ

第四條 國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵ス可カラサル者トス

第五條 行政權ハ國王一人ニ屬ス國王ハ國ノ首長ニシテ

海陸軍ヲ指揮シ戰書ヲ投シ和親同盟貿易等ノ條約ヲ結

フ然レモ國益及ヒ國安ニ關スル條約ハ預メ兩院ニ報知

シ且其理由ヲ附ス可シ

國財ヲ費シ若クハ國疆ノ變改ニ關スル條約ハ兩院ノ承

認ヲ得ルニ非サレハ其力ヲ有セス

第六條 國王ハ諸官員ヲ撰任シ及ヒ法律ヲ行フ爲ニ緊要ナル布告又ハ規則ヲ制定スルノ權ヲ有ス然レモ法律ノ履行ヲ停止シ或ハ法律ヲ遵守セサルコトヲ許可ス可ラス

第七條 國王ハ法律ヲ確定シ及ヒ法律ヲ布告ス

第八條 國王ハ罪犯ヲ赦宥シ及ヒ刑ヲ減輕スルノ權ヲ有ス

第九條 國王ハ每歲兩院ヲ徵集シ又ハ集會ヲ延ハシ或ハ下院ヲ解散シタル時ハ解散ノ日ヨリ四箇月内ニ更ニ下院ヲ徵集ス可シ

第十條 國王及ヒ兩院ハ法律ヲ起艸スルノ權ヲ有ス然レ

凡物品ニ稅ヲ賦シ及ヒ國費ノ豫算表ヲ製シ及ヒ國庫ノ現金ニ關スル法律ハ下院ニ於テノミ起艸スル者トス

第十一條 國王ハ滿十八歲ヲ以テ成年トス

第十二條 國王未成年ノ間ハ嗣位ノ順序ニ從ヒ最近ナル王族ノ滿二十一歲ナル者攝政ノ職ニ任ス可シ

第十三條 攝政ノ職ニ任ス可キ最近王族ノ未成年ニシテ他ノ王族攝政ノ職ニ任シタル時ハ國王成年ニ至ル迄其攝政ハ繼續シテ其ニ在ル可シ

第十四條 男統ノ王族ナキ時ハ母后攝政ノ職ニ任ス

第十五條 母后ナキ時ハ諸執政國王ノ歿シタル日ヨリ十

日ノ間ニ兩院ヲ徵集シ兩院ニ於テ攝政トス可キ者ヲ撰任ス可シ

第十六條 以上掲載スル所ノ攝政職ニ關スル諸種ノ規定ハ成年ナル國王ノ政ヲ親ラスル能サル狀アル時モ亦準據ス可キ者トス若シ滿十八歲ノ太子アル時ハ之ヲ以テ攝政ノ職ニ任ス可シ

第十七條 國王七歲ニ至ル迄ノ間ハ母后其後見ヲナシ七歲ヲ越ユル時ハ別ニ攝政ヲ任ス可シ

第十八條 僧官ニ關スル各種ノ規定及ヒ僧官ノ委任ヲナスニ付テノ行政權ハ國王之ヲ行フ

第十九條 王家ノ經費ハ當時ノ國王在位前十年間ノ平均ヲ以テ其額ヲ定ム

國王ハ王位ニ屬スル宮殿離宮庭園及ヒ動産ヲ支配スルノ權ヲ有ス之ニ關スル主任ノ執政ハ其目錄ヲ製シ置ク可シ

將來王家ノ經費ハ太子ノ王位ヲ嗣シ時集會スル所ノ兩院ニ於テ國王在位間ノ額ヲ定ム

第二十條 國王ノ名義ヲ以テ有スル物品ハ其財産トス國王在位間或ハ償ヲ與ヘ或ハ償ヲ與ヘスシテ得タル所ノ物品モ亦其財産トス

國王ハ其私有ノ財産ニ付テハ財産ノ贈遺ノ定分ヲ設クルノ民法ニ循由セスシテ隨意ニ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ行フヲ得可シ其他ノ財産ニ付テハ一般ノ法律ニ循フ

第二十一條 成年ニ至ル迄ノ間及ヒ結婚ノ時ニ用ユル太子ノ費額右ト同一ナル場合ノ王族ノ費額又ハ母后ノ歳費公主ノ粧金等皆法律ニ由テ年々國費ノ豫算ヲ以テ之ヲ支給スル者トス

第二十二條 國王ハ王位ヲ嗣キタル時兩院ノ集會ノ前ニ於テ國憲ヲ確守ス可キ誓ヲ宣フ

第二十三條 攝政ハ未タ其職ヲ行ハサル前ニ國王ニ忠節
ヲ盡シ國憲及ヒ法律ヲ確守ス可キ誓ヲ宣フ

國民ノ權利及ヒ義務

第二十四條 凡ソ國民タル者ハ法律ニ於テ平等トス○凡
ソ國民法律ニ定メタル特條ノ外均ク政權ヲ享ケ又タ文
武ノ官ニ任スルヲ得

第二十五條 凡ソ國民ハ各々財産ノ比例ニ從ヒ國費ノ爲
ニ租稅ヲ納ムル者トス

第二十六條 國民ノ自由ヲ保護ス○法律ニ掲ケタル時機
ニ非ス及ヒ法律ニ定メタル規程ニ由ルニ非サレハ何人

モ拿捕セララル、事ナク且ツ裁判所ニ提喚セララル、
ヲ得

第二十七條 住居ハ侵ス可ラサル者トス法律ニ示シタル
定規ニ由ルニ非ス及ヒ法律ニ定メタル方式ニ由ラスシ
テ住居ヲ檢探スルヲ得ス

第二十八條 出版ハ自由タリ然レモ一ノ法律ニ由テ惡弊
ヲ防制スルヲ得○新舊約書及ヒ教法問答禮拜式ノ書
籍ハ副督教第二等ノ准許ヲ得ルニ非サレハ出版スル事
ヲ得ス

第二十九條 凡ソ財産ハ侵ス可ラサル者トス

然レモ法律ニ掲ケタル公益ノ故ニ由リ法律ニ於テ正當ナル賠償ヲ以テスル時ハ其全部或ハ局部ヲ失フ可シ

第三十條 兩院ノ決定及ヒ國王ノ許可ナクシテ租稅ヲ賦ス可ラス

第三十一條 國債ヲ保任ス 政府ト債主トノ契約ハ侵ス可ラサル者トス

第三十二條 戎器ヲ携フルニ非スシテ平穩ニ集會スルノ權ヲ有ス然レモ此ノ權ヲ行フハ公益ノ爲ニ定メタル法律ニ循フ可シ

此ニ定メタル法則ハ公場ノ集會ニ適用ス可カラス公場

ノ集會ハ警察規則ニ屬ス

元老院

第三十三條 元老院ハ定員ナシ國王ヨリ終身間撰任シタル議員ヨリ成ル元老院ノ議員ハ滿四十歳ニシテ且ツ左ニ開載スル各種ノ内ヨリ撰任ス可シ

- 一「セルセブエ」督「エブエ」副督
- 一「セルセブエ」教
- 一下院ノ議長

一三周會間即六年間在職ノ代議員

- 一「ミニステルデ」國政
- 一「ミニステルセ」諸省

- 一 第一等全權公使
- 一 三年間第二等全權公使タル者
- 一 大審院及ヒ「シヤムブルデコント」會計裁判所ノ第一等及ヒ第二等ノ第一席人
- 一 控訴院ノ第一等上席人
- 一 五年間大審院ノ大代言人及ヒ大檢事タル者
- 一 三年間控訴院ノ一課ノ上席人タル者
- 一 五年間控訴院ノ大代言人及ヒ大檢事タル者
- 一 海陸軍ノ大將及ヒ五年間在官ノ少將
- 一 五年間參議官タル者

- 一 三度參議院ノ一課ノ上席人ニ撰ハシタル參議官
 - 一 七年間監察官タル者
 - 一 七年間「アカデミ、ロイヤル」學士會ニ在ル者
 - 一 七年間文部少輔タル者
 - 一 勤勞アル者及ヒ材能德望アル者
 - 一 財産或ハ職業ニ因テ三年間三千「リブル」一「リブル」ハ凡我二十錢ニ當ル以上ノ直税ヲ納ムル者
- 第三十四條 王族ハ元老院議員タルノ權ヲ有ス列席ノ坐次ハ議長ノ下ニ班ス可シ滿二十歳ニシテ院中ニ參入シ滿二十五歳ニシテ公議ノ權ヲ有ス

第三十五條 元老院ノ議長及ヒ副議長ハ國王之ヲ撰任ス
○元老院ハ議員ノ中ヨリ書記官ヲ撰任ス

第三十六條 逆罪及ヒ國ノ安寧ヲ害スル罪犯アル時又ハ
下院ヨリ諸執政ヲ論告シタル時ハ國王ハ元老院ヲ以テ
「ホートクール、デ、ジュヌスギス」最上等裁判所ト爲ス

右ノ場合ニ於テハ元老院ハ已ニ「コールボリギー」國政
ノ權ヲ有セス故ニ裁判ニ關セサル事件ヲ執行ス可ラス
若シ之ニ背ク時ハ其効ナカル可シ

第三十七條 議員タル者ハ現行罪犯ヲ除クノ外元老院ノ
命令ニ由ルニ非サレハ拿捕スルヲ得ス元老院ハ議員

ヲ告訴シタル者アル時之ヲ裁判スルノ權アリ

第三十八條 王族ノ身上證書婚姻出產死ハ元老院ニ送り

元老院ハ其證書ヲ書房中ニ藏ス可シ

下院

第三十九條 下院ハ法律ニ定メタル選區代議員ノ撰爲
ルヨリ派出シタル代議員ヨリ成ル

第四十條 國王ノ支配ヲ受ケ滿卅歳ニシテ政權民權ヲ享
ケ法律ノ規程ニ適スル者ニ非サル代議員ハ議院ニ參入
ス可カラス

第四十一條 代議員ハ之ヲ派出シタル地方ノ總代ニ非ス

全國民ノ總代ナリ

撰舉人ハ一切代議員ニ教令スルヲ禁ス

第四十二條 代議員ノ任期ハ五年トス此ノ年限ノ已ニ終
リタル時ハ其任期モ亦從テ消散ス

第四十三條 議長副議長及ヒ書記官等ハ一周會ノ始メニ
於テ下院ヨリ公撰ス其任期ハ一周會間トス

第四十四條 代議員任期中解職スル時ハ選區ハ代員ヲ撰
フ爲ニ速ニ撰與人ヲ徵集ス可シ

第四十五條 現行罪犯ヲ除クノ外一周會ノ間ハ代議員ヲ
拿捕スルヲ得ス又下院ノ許可ナクシテ刑法ニ觸タル

事件ノ爲ニ之ヲ裁判所ニ提喚ス可カラス

第四十六條 下院ノ一周會間ニ於テ要償ノ爲ニ代議員ニ
禁錮ヲ宣告シ捕牒ヲ付ス可カラヌ一周會ノ前後三周日
間モ亦然リトス

第四十七條 下院ハ諸執政ノ論告シ最上等裁判所ニ提喚
スルノ權ヲ有ス第三十六條
參照ス可シ

兩院

第四十八條 各院ノ集會ハ同時トス〇一ノ議院ノ集會セ
サル時他ノ議院ノ集會スルハ法律ニ循由セサル者ニ
シテ其効ヲ有セス

第四十九條 兩院ノ議員ハ未タ其職務ヲ行ハサル前ニ國王ニ忠節ヲ盡シ國憲及ヒ法律ヲ確守シ國王ト國トノ合同利益ヲ圖リ職務ヲ行フ可キ誓ヲ宣フ

第五十條 各院ノ職務ニ於テハ報償ヲ受ク可キ理由ナシ

第五十一條 各院ノ議員ハ會議ニ於テ發言シタル意見及ヒ可否ノ投言ヲナシタル爲ニ告訴セラレ、フナシ

第五十二條 各院ノ集會ハ公行トス○然レモ議員十人ノ求ニ由リ密會ヲ行フヲ得可シ

第五十三條 各院ノ議員過半衆列席セサル時ハ集會及ヒ會議ハ其効ヲ有セス

第五十四條 各院ハ過半数ヲ以テ可否ヲ決定ス

第五十五條 法案ノ發議ハ先ツ各院ノ委員ニ於テ調査ス可シ而シテ一ノ議院ノ己ニ承諾シタル者ハ他ノ議院ニ送致ス又他ノ議院ノ承諾シタル後ハ國王ニ呈シテ其許可ヲ受ク可シ

各院ニ於テノ討議ハ各條之ヲ爲ス可シ

第五十六條 立法權ノ三派 國王上ノ何レニ於テモ一タヒ否拒シタル法案ノ發議ハ同時ノ集會ニ於テ復タ用ユルヲ得ス

第五十七條 成年ノ國民ハ議院ニ向フテ願書ヲ進呈スル

ノ權アリ議院ハ委員ニ托シテ願書ヲ調査セシメ而シテ
委員ノ陳呈ニ由テ願書ヲ受ク可キコトニ決定スル時ハ其
受クル所ノ願書ヲ主任ノ執政或ハ緊要ナル事件ヲ調査
スル爲ニ設ケタル寮司ニ送付スルノ權アリ

第五十八條 各民親ラ議院ニ向テ願書ヲ進呈スルコトヲ禁
ス

「オトリチ、コンスチ、ニ」管廳又ハ「ニ」應名及ヒ社名ヲ以
會社ヲ云

テ願書ヲ進呈スルノ權アリ

第五十九條 各院ハ「デビウタシヨ」所ノ代理者ヲ付キ出ス
ニ面接スルコトヲ禁ス各院ノ議員及諸執政又ハ政府ノ委

任ヲ受ケタル者ノ外亦之ヲ禁ス

第六十條 各院ハ其議員カ確實ナル議院參入ノ權力ヲ有
スルヤ否ヲ審理ス

第六十一條 各院ハ自カラ設ケタル條規ニ由テ其職務ヲ
行フニ付テノ方式ヲ定ム

第六十二條 伊太利語ヲ以テ兩院職務上ノ言辭トス○然
レモ佛蘭西語ヲ用ユル所ノ州ヨリ派出シタル議員ハ其
語ヲ用ユルコトヲ得可シ

第六十三條 各院ニ於テ可否ヲ表スル爲ニ或ハ起坐ヲ以
テシ或ハ議院ヲ左右ニ分チ或ハ暗票「スリウテシ、セク」即チ無名ノ投票

ヲ以テス法案ノ總議及ヒ人身ニ關スル可否亦必ス暗票ヲ用ユ

第六十四條 凡ソ議員ハ兩院ノ議員ヲ兼任スルヲ得ス

執政

第六十五條 國王ハ諸執政ヲ任シ及ヒ之ヲ免ス

第六十六條 諸執政ハ議員タル時ニ非サレハ兩院ニ於テ列席スルヲ得ス然レモ常ニ議院ニ參入スルノ權アリ又議院ニ向フテ要求スルヲアル時ハ議院ハ必ス之ヲ聽ク可シ

第六十七條 諸執政ハ職務ニ付テノ責ニ任ス法律及ヒ一

切ノ文書ハ執政一人ノ花押アラサレハ其力ヲ有セス

司法

第六十八條 凡ソ裁判ハ國王ノ任シタル裁判官ニ由リ王名ヲ以テ宣告ス

第六十九條 郡裁判所ヲ除クノ外國王ノ任シタル裁判官ノ三年間在職シタル者ハ復タ轉免ス可ラス

第七十條 裁判所ハ上等下等ニ論ナク廢改スルヲ得ス
○裁判所ノ構制ハ法律ニ由ルニ非サレハ變更ス可カラ

第七十一條 裁判官ハ管内ノ訟獄ヲ聽斷セスシテ之ヲ他

ノ裁判所ニ移スヲ得ス○故ニ特別ナル裁判所及ヒ專務ノ員ヲ設クルヲ得ス

第七十二條 民事刑事トナシ裁判所ノ訟庭ハ法律ニ由テ公行トス

第七十三條 全國民ノ爲ニ法律ノ主旨ヲ釋明スルハ立法權内ニ屬ス

通則

第七十四條 州邑ノ設立及ヒ疆界ハ法律ニ由テ之ヲ定ム

第七十五條 海陸軍兵ノ點徴ハ法律ニ由テ之ヲ行フ

第七十六條 法律ニ定メタル條規ニ從ツテ邑兵ヲ設ク

第七十七條 國旗ヲ保守ス全國民ノ帽印ハ藍色ヲ用ユ

第七十八條 現在スル所ノ「ドクシヨ」賞牌等ヲ佩ヒタル貴人會社ノ金ヲ云

フヲ保續ス社則ニ由ルニ非レハ其金額ヲ費用スルヲ得ス○國王ハ新ニ貴人ノ會社ヲ設ケ社則ヲ定ムルノ權

ヲ有ス

第七十九條 貴族ノ爵位ヲ保續ス○國王ハ貴族ノ爵位ヲ

授クルノ權ヲ有ス

第八十條 凡ソ國民國王ノ許可ヲ得ルニ非サレハ外國ノ

賞牌及ヒ尊稱或ハ養老銀ヲ受クルヲ得ス

第八十一條 此ノ國憲ニ抵觸スル法律ハ之ヲ廢ス

假則

第八十二條 此ノ國憲ハ兩院集會ノ初日ヨリ其力ヲ有ス
 兩院ノ集會ハ議員撰舉ノ整理スルヤ否直ニ之ヲ行フ可
 シ若シ集會迄ノ間ニ於テ現行ノ方式ニ付キ緊急ナル時
 機アル時ハ國王ハ各種ノ規則ヲ假設スルノ權ヲ有ス裁
 判所ニ於テ批定及簿冊ニ記入スル方法ハ國憲布告ノ日
 ヨリ之ヲ廢ス

第八十三條 國王ハ此ノ國憲ヲ施行スル爲ニ緊要ナル出
 版及ヒ撰舉或ハ邑兵又ハ參議官ニ關スル法律ヲ制定ス
 ルノ權ヲ有ス未タ出版ノ法律ヲ布告セサル内ハ尙現行

ノ規則ニ由ル

第八十四條 此ノ假則ヲ施行シ及ヒ遵守セシムルハ執政
 其責ニ任ス

謬誤追正

四

第四第六行

〔叢〕ハ〔最〕ノ誤

十五

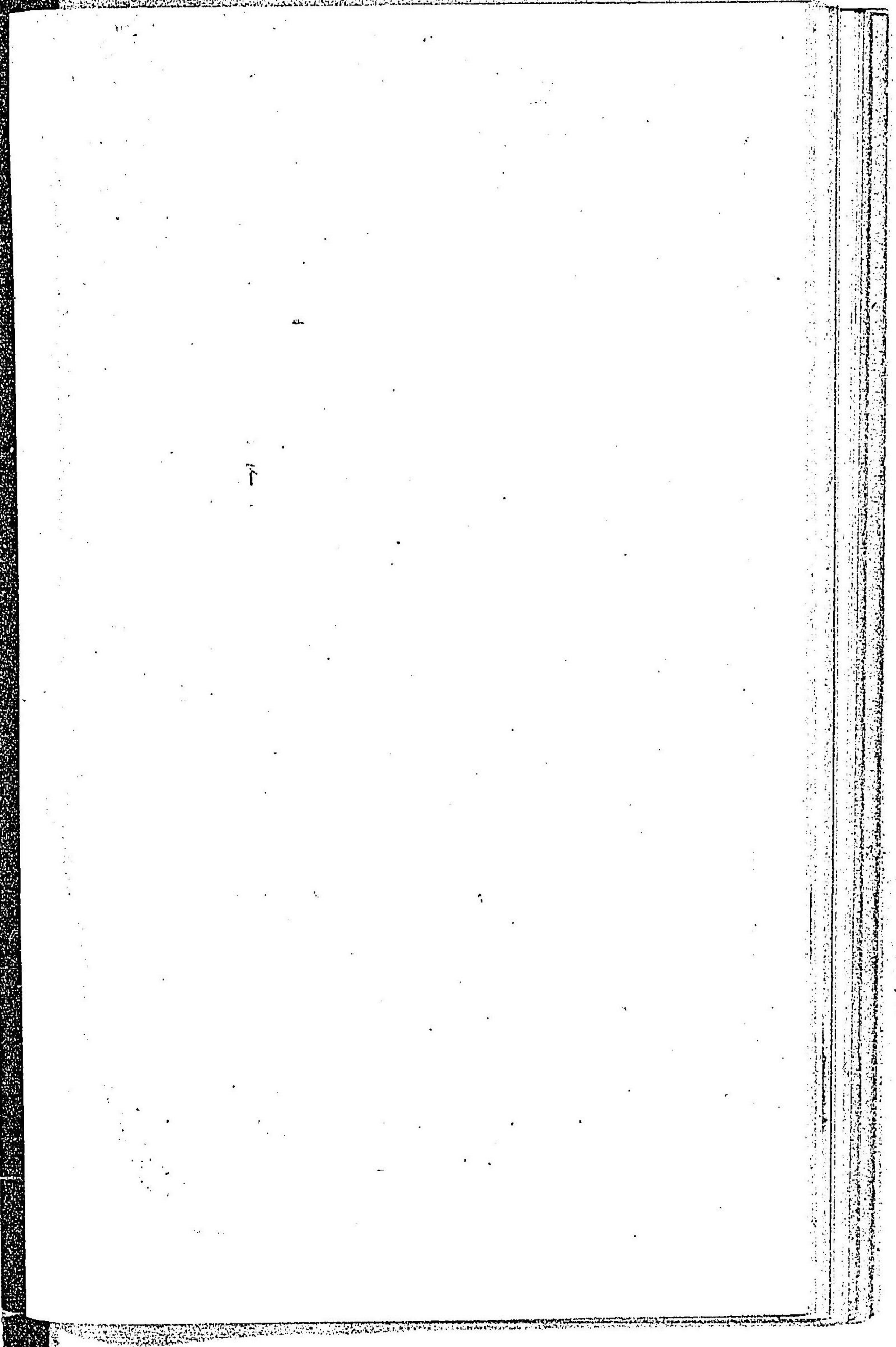
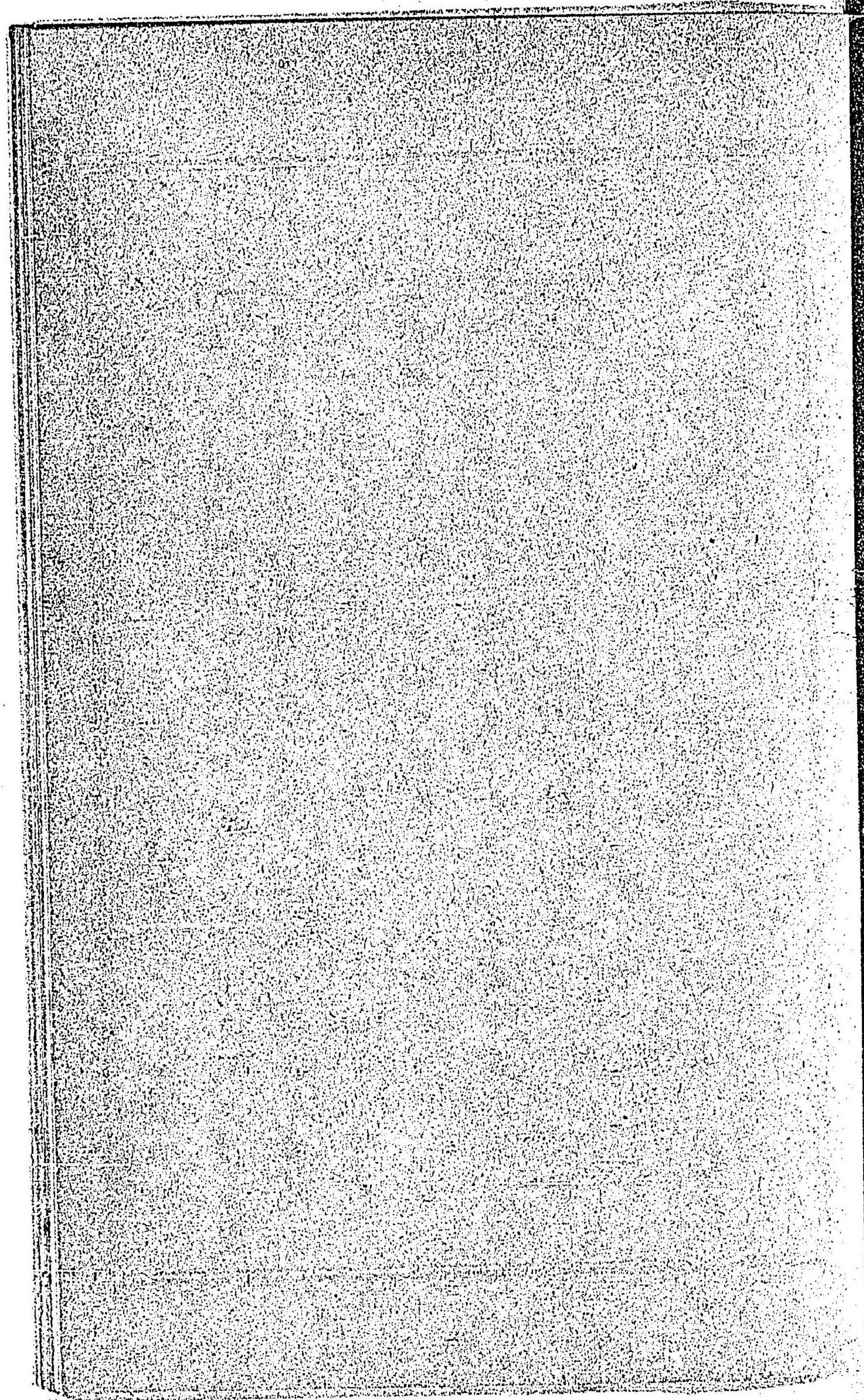
第五行註

〔ノ〕ハ〔ナ〕ノ誤

十六

第八行

〔與〕ハ〔舉〕ノ誤



獨逸國憲

ヴエルベツキ氏 口譯

齋藤利敬 筆記

細川潤次郎 校正

一千八百七十一年四月十六日ノ獨逸帝國國憲

北獨逸聯邦ノ名義ヲ以テ普魯西王及「バビエール」王「ウ
イルテンベルグ」王「バーテン」大公「マイヌ」河南ニ在ル「ヘ
ッセン」國ノ名義ヲ以テ「ヘッセン」大公ハ聯邦ノ領地ヲ
防護シ及其領地内ニ施ス可キ法ヲ遵守シ且ツ獨逸國
民ノ幸福ヲ保全スル爲ニ永久ノ盟約ヲ結フ此聯邦ヲ

獨逸帝國ト稱シ左ニ掲載スル所ノ國憲ヲ保持ス

第一篇 聯邦ノ領地

第一條 獨逸聯邦ニ列ス可キ者ハ「ラウエンブルグ」ヲ加ヘテ普魯西ノ各州及「バビエール」「サックス」「ウイルテンベルグ」「バーデン」「ヘッセン」「メクレンムブルグ、シユエリーオン」「サックス、ウアイマル」「メクレンムブルグ、ストレリツ」「チルデンブルグ」「ブロンズウイツク」「サックス、マイニオンゲン」「サックス、アルテンブルグ」「サックス、コーブルグ、エータ」「アーヌハルト」「シウアルツブルグ、ルードルスタット」「シウアルツブルグ、ソンドルスハウゼン」「ヴアルデツク」「ロイス、エルテレーリニエ」

兄血統

「ロイス、エングレリニエ」「シヤウムブルグ、リツペ」「リツペ」リ

弟血統

ウーベツク」「ブレーメン」「ハンブルグ」トス 原註一千八百七十一年六月二十

八日「アルサス」「ロレーヌ」ノ二州モ亦獨逸帝國ノ領地ニ屬ス

第二篇 獨逸帝國立法ノ事

第二條 前條ニ記シタル領地内ニ於テ帝國ハ此國憲ニ掲載シタル種々ノ條規ニ据テ立法權ヲ行フ而シテ帝國法律ノ効ハ各國法律ノ効ニ勝ル者トス凡テ帝國法律ハ帝國ノ布告ニ由テ其効ヲ有ス右ノ布告ノ方式ハ帝國法律新聞紙ニ於テ之ヲ爲ス可シ法律ノ効ヲ有スル事ニ付テハ法律ノ布告ニ於テ一日限ヲ定ムルニ非サレハ法律

ノ功ハ伯靈ニ於テ帝國法律新聞紙ニ布告ヲ掲出シタル
日ヨリ十四日目ニ於テス可シ

第三條 獨逸全國ニ於テ人民ノ國民タルノ權ハ均等トス
故ニ聯邦ノ一ケ國ノ人民ハ聯邦ノ他ノ一ケ國ニ於テ該
國人ト同一ノ取扱ヲ受ケ住居營業官職又ハ土地ヲ購ヒ
政權ヲ得ル事其他種々民權ヲ行フニ付該國人ト均等ノ
權利ヲ有ス且ツ治罪及法律ノ保護ヲ受ク可キ事ニ於テ
モ亦該國人ト同一ノ取扱ヲ受ク可シ○凡ソ獨逸人ハ本
屬ノ長官ニ於テモ又ハ聯邦各國ノ長官ニ於テモ右ノ權
利ヲ妨碍セラレ、コナシ○貧民ヲ救助シ及外來ノ者ヲ

邑ノ戶籍ニ加フ可キ事件ニ關スル種々ノ規定ハ本條第
一段ニ記シタル者ニ循ヒ變更セラレ、コナシ○又ハ放
逐セラレタル者ヲ納レ及患者ヲ治療シ獨逸國民ノ死シ
タル者ヲ埋葬スルニ付テノ聯邦各國ノ間ノ條規ハ假リ
ニ其力ヲ有ス○本國ニ對シ陸海軍ニ盡ス可キ人民ノ義
務ハ帝國ノ立法ヲ以テ其要件ヲ定ム○外國ニ對シテ凡
獨逸人民ハ均シク帝國ノ保護ヲ受クルノ權アリ

第四條 帝國及帝國法律ノ管理ヲ受クヘキ諸件ハ左ノ如
シ
第一 「フライツウギグカイト」獨逸聯邦ヲ自在ニ及人
轉移スルヲ謂フ

民ノ本籍權住居政權路券外國人取締ノ事ニ關スル種々ノ規則又此ノ國憲ノ第三條ニ於テ未タ掲載セサル營業并ニ保儉ノ事ニ關スル種々ノ規則又外國エノ殖民及遷徙ノ事ニ關スル種々ノ規則但「パビエール」ニ於テ本籍及住居ノ事ハ格別ナリトス

第二 輸出入税及貿易ニ關スル立法又ハ帝國ノ爲メニ用ユ可キ賦税ノ事

第三 度量衡及錢貨ニ關スル立法又ハ有息紙幣マニシールチテ公債マニシールチテ無息紙幣ウシフンチールチテ通用紙幣ヲ發行スルニ付テノ規則

第四 銀行ノコニ關スル規則

第五 新發明品ノ專賣ヲ許ス事

第六 精神ノ所有ヲ保護スル事版權ヲ與フルヲ謂フ

第七 外國ニ於テ獨逸ノ貿易大洋ノ通航及國旗チ一般ニ保護スルコトニ付テノ方式又ハ帝國ヨリ設立ス可キ領事編制ノ事

第八 「パビエール」ニ於テ此ノ國憲ノ第四十六條ニ掲載シタル外鐵道ノ事又ハ國ノ防禦及一般交通ノ爲ニ道路及ヒ河溝ヲ開鑿スル事

第九 聯邦ノ數ヶ國ヲ貫注シタル河溝ニ於テ浮筏通船ノ事又ハ河溝ノ營繕及河溝税ノ事

第十 郵便及電信ノ事但「ハビエール」「ウイール」テノベル
グ「ニケ國」ニ於テハ此ノ國憲ノ第五十二條ニ掲載シ
タル規則ニ循フ可シ

第十一 民事裁判ノ宣告ヲ互ニ執行スルニ付テノ種
々ノ規則又ハ要求^{レキシヨ}ヲ互ニ成就スルニ付テノ種々ノ規
則

第十二 公正ノ證書ヲ確認スルニ付テノ規則

第十三 契約^{オノリガチヨソズクレト}法刑法商法爲替證券治罪法訴訟法ノ事
ニ關スル一般ノ立法

第十四 帝國陸海軍ノ事

第十五 醫術及獸醫ニ關スル取締規則

第十六 出版及會社ノ規則

第五條 帝國ノ立法權ハ上院^{フンデスラート}及下院^{ライクスタグ}共同シテ之ヲ行フ兩

院ノ過半数決定ノ諧同ハ帝國法律ノ爲ニ緊要ニシテ之
ヲ以テ足レリトス○陸海軍ノ事及此ノ國憲ノ第三十五
條ニ掲載シタル租稅ノ事ニ關スル議案ニ付上院ニ於テ
意見ノ數派ニ分レタル時議長ノ投言ニ由リ現在ノ設立
ヲ保タシムル爲ニハ必ス之カ決定ヲ爲ス可シ

第三篇 上院ノ事
^{ブンデスラート}

第六條 上院ハ聯邦各國ノ代議士ヲ以テ編制ス而シテ聯

邦各國ノ有ス可キ投言ノ効力ノ比例ハ左ノ如シ即チ「ハ
ンノウグニル」「クールヘッセン」「ホルスタイン」「ナツサウ
「フランクフルト」ノ昔時投言チナセシ者チ加ヘテ「プロ
イス」ハ十七「バビエール」ハ六「サククス」ハ四「ウイルトンベ
ルグ」ハ四「バーデン」ハ三「ヘッセン」ハ三「メクレンブルグ、シ
ユエリオン」ハ二「サククス、ウアイマル」「メクレンブルグ、
ストレリツ」「チルデンブルグ」ハ各一「ブロンズウイツク」ハ
二「サククス、マイニンゲン」「サククス、アルテンブルグ」「サ
ックス、コーブルグゼータ」「アヌハルト」「シウアルツブル
グ、ルードルスタット」「シウアルツブルグ、ゾンデルス

ハウセン」「ヴァルデック」「ロイスエルテネリニエ」「ロイスユ
ンゲレリニエ」「シヤウムブルグ、リツペ」「リツペ」「リウベッ
ク」「ブネーメン」「ハンブルグ」ハ各一ノ投言チ有シ通計五
十八ノ投言アリ(原註一千八百七十年ニ獨逸帝國ニ屬シタル佛國ノ「アルサス」「ロネーヌ」ノ二州ハ合同シテ代議士一員ヲ上院ニ出ス)○聯邦各國ハ上院ニ於テ其各國ノ有
スル投言ノ効力ノ比例ニ從テ代議士チ上院ニ出ス「フンテラート」チ
得可シ然レモ聯邦各國ノ有ス可キ投言ノ總數ハ必ス合
同シテ出ス可キ者トス

第七條 上院ニ於テ決定ス可キ諸件ハ左ノ如シ
第一 下院ニ於テ起創ス可キ議案及下院ニ於テ爲シ

タル決定ノ事

第二 帝國ノ法律ニ於テ其法律ヲ施行スルニ付格別

ナル定規アルニ非サレハ帝國法律ヲ施行スル爲メ

ニ必要ナル行政ノ規則及行政ノ設立爲ニ政府ノ各部ノ

官廳ヲノ事
謂フ

第三 帝國法律ヲ施行スルニ付或ハ前項ニ掲載シタ

ル規則及設立ニ付テ現ハル、所ノ不全備ノ事

聯邦各國ハ種々ノ意見ヲ具シ上院ニ提出スルノ權ヲ有

ス而シテ議長ハ必ス其事件ヲ議院ノ公議ニ付ス可シ○
ブシテスラト

上院ニ於テ決定ノ法式ハ此ノ國憲ノ第五條及第三十七

條及第七十八條ニ掲載シタルノ外ハ通常過半数ノ法式

ヲ用ユ出頭セサル投言或ハ投言ヲ爲サ、ル者ハ之ヲ算

入スルヲ得ス如シ投言ノ數ノ均分スル時ハ議長ノ投

言ヲ以テ之ヲ決定ス○此ノ國憲ノ條規ニ据リ常國一般

ニ干涉セサル事件ヲ決定スル時ハ該事件ニ關係シタル

聯邦各國ノ投言ノミヲ算入スヘシ

第八條 上院ニ於テ其議員ヨリ設ク可キ常備委員ハ左ノ

如シ

第一 陸軍及各所ノ城堡ニ關スル委員

第二 海軍ニ關スル委員